無邪気な悪魔と忍者の末裔

京野　美波

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

このＰＤＦファイルは小説家になろうグループサイトで掲載中の作品をＰＤＦ化したものです。
このＰＤＦファイルおよび作品の取り扱いについては、小説家になろう利用規約が適用されます。そのため、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止いたします。作品の紹介や個人用途での印刷および保存にはご自由にお使いください。

【作品タイトル】
無邪気な悪魔と忍者の末裔

【Ｎコード】
Ｎ１４８５ＧＱ

【作者名】
京野　美波

【あらすじ】
幼馴染の子ども達が秘密結社を作ろうとしました。不良、街の暴力組織、売春。マフィア。秘密結社は日本有数の組織になりました。ある日、忍者の末裔、百地小百合を支配下に企んだ正吉。忍者の末裔は日本の闇の特殊部隊になっていたのです。正吉配下の黒いナースＶＳくの一の闘いがはじまります。
普通のセックス描写やＳＭ描写は有りません。女体を凌辱、拷問ＳＭ小説です。顔の描写も下手ですが暇潰しに宜しくお願いします。

僕らは秘密結社を作り町を支配するヒーローになる（前書き）

地方都市の子供達が夢見たのは自分達の支配する町でした。だが、子供達は虫やカエルのように人も壊しました。

僕らは秘密結社を作り町を支配するヒーローになる

子供達は町を護るヒーローに成りたくって秘密結社を作った。

第一章　忍の災難

「もう！忘れるかな？お母さん。今日の部活で使うのにユニホームが上だけ入れ忘れるなんてー。」

蝉時雨以上に狂ったように啼くセミの泣き声の中、忍は自転車を田圃横の畦道を走らせていた。右に竹林が見える。武林の中に細い獣道が見える。鬱蒼と繁り昼でも薄暗い。昼の二時　。夕方ならヤブカが多いが昼間は少ない。畦道を走っても家まで帰れるが竹林を抜けて近道をした方が時間が短縮される。

忍は近道を選択した。竹薮は生い茂り昼間でも薄暗い。獣道なので手入れもされず笹が顔に当たる。部活で日焼けした太腿、浅黒い顔、年齢よりも大きなバスト。部活中に男子が忍の揺れる胸を目当てに見学に来る。藪の中の獣道はより一層と暗くなり、笹が太腿にチクチクと当たる。「もう！本当に嫌だ」独り言を言いながらペダルを漕ぐ。

夜なら絶対に獣道は抜けない。でもバレーボール部の対抗試合で一年生ではじめで大会で補欠に選ばれた。ココを抜ければ直ぐに家だ。勢い良く竹薮の道を自転車で抜ける。忍は一年にしては幼い顔をしている。バレーボール部に入って身長は1年で１０センチも伸びた。部活動仲間やクラスメイトにも育ち過ぎとよく言われた。

竹薮の先に光が見える。もう直ぐに家だ。土の道に落ち葉が他よりも溜まっている。ガクン！自転車の前のタイヤが沈み、忍の視界に土の地面と雑草の緑が見えて意識を失った。忍は前のめりに飛んで倒れた。頭を打ったようで失神した。作為的に隠した落とし穴に自転車の前輪が落ち、タイヤがロックされて前のめりに崩れおちたのだ。

「うまく、いったの？」「タックン、アナに落ちた？」「わかんない。でもドスンって音がしたよ」竹薮の奥からワラワラと子供の声が聞こえ、野球帽を被った正吉君、おかっぱ頭の花子ちゃん。皆んなより少し大柄な鉄雄君が出てきた。正吉君が手にしていた竹棒で忍の身体を啄く。

「どうしたの？正吉くーん」タックンが自転車で獣道を抜けて正吉の元に近づいて来た。

「又、やったの落し穴？佐和子先生に叱られるよ！」

「あ！中村さんちの忍ちゃんだ」

「タックン知ってるの？」

「うん。海辺の家の子だよ。去年のお正月にはあそんで、お風呂も入ったよ」

「じゃあ助けてあげないと。膝から血が出てるよ！」「近くにじいちゃんの炭小屋が有るよ。運んで行こう」「鉄ちゃん、胴体を持って。タックンと僕で脚を持つよ。花ちゃんは自転車を押して来て」鉄雄君が忍の胴体を抱き抱えた。「このお姉ちゃん、オッパイが大きい！身体もデカいよ。」鉄雄君が忍の脇から手を廻し胸の辺りを抱え込んだ。忍は子供達に膨らみ初めた胸を触られている事も分からず気絶している。鉄雄君はタックン、正吉君よりも大柄で村の子供相撲の横綱。家業の米屋でお手伝いしているから力持ち。４６ｋｇの忍は軽々と持てる。ガサガサゴソゴソ、竹薮の奥に入って行く子供達と忍。花ちゃんが忍の自転車を押して後をついて行く。笹を掻き分け、バラック建ての炭小屋に忍を運んだ。まだ、忍はおきない。炭小屋にはお爺さんが使う少しの薬箱が常時、置いています。炭小屋の中の茣蓙に忍を寝かし足に着いた泥を落とそうとします。

「タックン、裏の井戸から水を持って来て」タックンがバケツを持って小屋を出て行きます。井戸からタックンがバケツに水を入れ小屋に入って来ました。「雑巾しか無いや」雑巾をバケツの水に漬けて絞ります。忍の肘、膝、おでこは擦りむいて血がにじんでいます。

「パンツにも血が着いて居るよ」花ちゃんがスカートを捲りみんな

に言いました。タックン、鉄ちゃん、正吉君は忍の紺のスカートの中を覗き込みます。「何かパンツから糸が出てるよ」タックンが呟きました。「お股は大事な場所だから先に治療しないと赤ちゃんが産めなくなるよ」花ちゃんが呟きました。「身体の他の部分も怪我をしていないか、調べよう」と正吉君が言い出し忍の制服を脱がし始めました。鉄ちゃんが忍の腕を頭の上にバンザイの形で伸ばし、制服を頭からスッポリと上に引き上げ、腕から制服が抜けます。鉄ちゃんがブラを外そうとしても忍のブラはスポーツブラです。肌に密着して外れません。「鉄ちゃん！コレ」正吉が小屋に有った枝切り鋏を鉄ちゃんに渡します。「ジョキジョキ…」簡単に小枝が切れる鋏だけ有って、スポーツブラの分厚い布地も簡単に切れます。「ボロん」忍の年齢の割に大きなオッパイがブラから飛び出します。「何か？違うよ！忍お姉ちゃんとお風呂に入った時は小さかったよ！身体も大きいし眉毛も上を向いてツリ目だよ」タックンがそう言いました。

「じいちゃんから聞いたことが有る。この辺りは人を騙す妖怪九尾の狐が出るって！妖怪狐は子供を食べるんだ」怖くなったタックン、正吉君、鉄ちゃん、花ちゃん。「とりあえずヒモで手脚を芝れば安心だよ」タックンが小屋に有った荒縄で忍の手首を併せて縛ります。「こうして、こうして」「タックン！その縛り方、普通と違うね！」「コレはお父さんから教えて貰った、もあい結びって言うんだ。簡単には、はずれないよ」タックンのお父さんは漁師さんです。器用に忍の手首を縛ります。「コレで妖怪狐か暴れても大丈夫だよ」手首を縛られた忍はスカートとパンツだけになりました。鉄ちゃんが忍の胸を吸います。「何してるの鉄ちゃん？」正吉君が鉄ちゃんに聞きます。「オッパイって吸うとお乳が出るんだよ」鉄ちゃんには産まれて直ぐの妹がいます。赤ちゃんにオッパイを吸わせるお母さんを何回も見たから大きいオッパイからは母乳が出るって思ったんでしょう。「妖怪からは出ないよ。

」正吉君が言うとみんなが身構えました。花ちゃんがスカートをズ

ラしパンツに手をかけました。ズルズル、パンツを膝までずり下げました。「お股に毛がモジャモジャ、一緒にお風呂に入った忍ちゃんじゃない」忍は一年で急速に発育しました。「とりあえず、お股の傷を確認しないと」「どうするの？」

「鉄ちゃん！脚を持って頭に持っていって」忍は脚を頭に左右に開かれアソコが子供達に丸見えにされ、膝で手首と荒縄で縛られました。「うわぁ、ビラビラしてる。花ちゃんには無いよね」よく花ちゃんとお医者さんごっこ遊びをしている正吉君は花ちゃんのアソコは見た事があります。「あたし、こんなビラビラないもん」花ちゃんが指で忍の大陰唇から出たビラビラした小陰唇を引っ張ります。「うぅん」「先に治療だ！」「起きて妖怪なら手に追えないよ」タックンと正吉君が話合います。「これで治療出来ないかな？」

タックンが呟きました。「忍ちゃんに化けて僕達を食べる気だ！」顔を赤らめて睨む眼は何時もの忍からは別人に見えたタックンはビックリしてます。「化け狐の正体を暴くぞ！化け狐には蜂の毒だ」「鉄ちゃん！小屋の裏に蜂の巣が有るから取りに行こう」正吉君はアニメで昔話で狐を懲らしめるのに蜂を使っていたのを思い出しました。小屋の裏に有る蜂の巣に小屋に有ったビニール袋を被せ、叩いて袋に入れました。「正吉君、蜂で何処を攻撃するの？」「アニメでは妖怪狐のお股を蜂が攻撃するの。だからお股に蜂を使って攻撃するの」正吉君は無邪気に話します。「それだけはやめて！いゃぁわわわ」凄い大声にビックリして直ぐに手拭いの猿轡を薄い唇に咬ませます。

忍は震えて来ています。お股の敏感な場所が蜂の針に刺される。首を振りモゴモゴと話そうとします。「何か言っているよ。」タックンが口に噛ましている手ぬぐいをずらそうとしました。「タックン！狐は嘘を付くから危険だよ」「あ！変態漫画が出てきた。このお姉ちゃん、ヘンタイだ」花ちゃんが忍の学生カバンからＢＬ漫画をとりだしました。同じクラスの女子から借りたボーイズラブのマン

ガです。

「女の子の顔をした男の子が、おチンチン舐めてる」忍は顔を赤らめました。「うわぁ、男の子が男の子のおチンチン舐めて喜んでる」「ヘンタイだ」口に巻かれた手拭いが外れて来ました。「タックン！お母さんに言わないから縄を解いて！お願い」鉄ちゃんが半ズボンをズリ降ろし、笑いながらおチンチンを出して忍の顔に近ずけます。「お姉ちゃん、おチンチン舐めるの好きなんだろ?僕のも舐めて」「舐めたら縄を解いてくれる?」鉄ちゃんが頷きます。忍は好きな人はいますが未経験者です。でも子供達に声は届きません。小さい鉄ちゃんのおチンチンを口に含みます。「痛い！噛んだ」経験の無い忍です。歯が当たったのでしょう。「やっぱり狐だ！おチンチンを噛もうとした。お仕置きだ！」鉄ちゃんが袋の中で暴れている蜂を忍の股間に当てようとしました。「鉄ちゃん、ボーボーの毛が邪魔で蜂は刺せないよ」T字のカミソリを持っている正吉君が鉄ちゃんを止めます。「邪魔な毛を剃らないと」そう言いながら、お爺さんが髭剃りに使うシェービングクリームを陰毛に塗りこみ、大陰唇、肛門周辺に丁寧に塗りこみます。「ひゃわん」思わず声が出ます。「動いたら切れるからね」子供の声なのにドスが効いています。

「このビラビラしたの邪魔！切り取ろうかな」小陰唇を引っ張って恐ろしい事をいいます。何とか剃れたようで残った泡を手拭いで拭き取ります。カミソリの刃の恐怖と子供達に観られている羞恥心、子供達にアソコを小さな指で摘まれたりした快感も混じり、少しピンク色の膣口からトロリとした物が流れ出しています。透明な中に少し血が混じった液体。「このお姉ちゃん、おもらしした」花ちゃんが言います。「おもらしはお仕置きだ！」顔を振りモゴモゴモゴモゴ。口から手拭いが外れます。「今なら叔母さんやお母さんに言わないわ。早く解いてくれる?嘘をついたらビラビラを切り取っていいわ。」「じゃ嘘をついたら、僕が切りとる」「絶対に言わない。それで解放してね」眼に涙を溜めて哀願します。「何故、僕のおチ

ンチンを噛んだの？」鉄ちゃんが忍に詰め寄ります。「それは‥‥」言葉が出ません。「ジリジリジリジリ」タックンのポケットの中の子供携帯電話が鳴り響きました。「タックン！もう晩ご飯よ！一度、帰って来なさい」タックンのママからの連絡です。「うん。分かったから。直ぐに帰るよ」「鉄ちゃん！夕飯だから帰って来なさいって。鉄ちゃんママも言っているよ。御飯食べて又、小屋に来ようよ。」鉄ちゃんの手が忍の股間に伸びて肉のビラビラを引っ張ります。ビョーンとピンク色の肉のビラビラが伸びます。「そうだね。僕も晩ご飯を食べて来るよ。家に花火と色々な物が有るから持ってくる」「んぐっ」忍は眼をキツく閉めて鈍い痛みに耐えます。「狐はどうする？」「目隠ししてテーブルの脚に縛り付けたら逃げないよ」丸いちゃぶ台を逆さにして簡易拘束具にした子供達は忍を四本の脚に綺麗に拘束しました。「騒がないでね。電気は着けて行くから。」目隠しをされ、猿轡に四肢を拘束された忍は暴れるのをやめました。子供達のやる事だから酷い事は無いし夜が遅いと家族が探してくれる。「ガタガタ」「僕、花火を持ってくる。」「僕は昆虫解剖キット」口々に楽しそうに話しながら小屋を出て行きました。

第二章　源治と時江

忍がちゃぶ台の脚に綺麗に拘束されて何時間か経った。忍には一時間にもそれ以上にも感じられた。小屋の外からは鈴虫、興梠など秋の虫たちが鳴き出している。誰が付けたのか蚊取り線香の煙が漂っている。「ガザカサガサ」遠くから足音が聴こえてくる。忍は身構えた。子供達が帰って来たかも知れない。「時江！今日は親方は帰らんじゃろ」浅黒い腕を時江の豊満な乳房が付いた肉感的な身体に廻し下から乳房を揉みしだきながら男と女が小屋の方に歩いてくる。「あの人は今日は街のキャバクラだよ。朝まで飲むんじゃない？」「ワシらも朝までやらまい」「キャッキャッ」片手に懐中電灯を持った時江。紺色の浴衣姿で豊満な胸を下から揉みしだかれながら笑っている。赤ら顔で君江の胸を揉みしだきながら千鳥足の源治。「

おぅ！小屋に灯がともっとお」忍は助けが来たと少し安堵したが、声の主が源治と分かり悲嘆した。村で一番の粗暴者。街でタチの悪い連中と悪さをして、地廻りのヤクザに追われ村に帰って来たと父に聞いたことがある。「良いじゃない。最初から電気が付いているんだから」「ガラガラガタガタ」炭小屋の戸が開く。オレンジ色の電球の下にちゃぶ台に四肢を固定されて剃り上げた股間を見せている娘が源治の眼前にいる。眼を見開き時江も股間を見詰めている。源造の下卑た笑い声が聞こえる。「寄りによってヤクザ崩れの源造！」でも助かるには源造に縋るしか有りません。「わんおうわん」猿轡越しで上手く喋れません。「どうせ街の暴走族がサラって小屋に入れたんじゃろ」海沿いの村には駐在所が１箇所しか無く、炭小屋に暴行目的でよく暴走族やヤクザ者が若い女やリンチ相手をサラって監禁をしていた。「おうおう、マンちょ晒して可哀想のう」「わんおうわん」「？ワシの名前に聞こえんか時江？」時江が忍の口から猿轡を外す。「源造さん！助けて」真っ裸の娘から自分の名前が呼ばれるとは思わず少し吃りながら「ワリャ何処のもんな？」と聞く「浜辺の拓也の娘の忍です。源造さん！助けて」拓也は村では源造よりも腕っ節も強く源造は拓也に殴られた事も有る。少なからず拓也に恨みが有った。「助けてもええんじゃがなぁ」源造のゴツゴツした指が忍の剃り上がりツルツルのマンちょの秘部に触れる。「真っ裸の娘を助けてもワシが疑われて拓也に殺されらァ」心の中でそう呟き無言で猿轡を小さな忍の口に押込み頭の後ろで結び直す。「時江！この娘、ワレん仲間に売れるかぁ」「どうすんなぁ源造。」「普通に助けて家に送っても、拓也ん事じゃワシが悪さしたと疑われらぁ。ありゃんに殴られた事も有るけんの！娘、犯して売るんじゃ。ワレにも半分、やりゃ。どうせ、街の暴走族に拉致されたんじゃろ。それよりも若い娘は初めてじゃ」「ウチの知り合いに沖縄の売春組織のもんが居るけ、売れば３００万に成るじゃろ。ええんじゃろ、売ろや。」最悪な展開に成った。近道をしただけで子供に拉致。中年オヤジに犯され沖縄の売春組織に売られる。忍は先行きを

考えてると気が狂いそうに成った。「おうおう、綺麗なマンちょじゃ」源造のザラザラした舌がツルツルに剃り上がって肌色にふっくらした恥丘から亀裂状に菊の蕾まで伸びたピンクのビラを這う。横では時江がにゃけながら見ている。時江は男も女も好きなバイセクシャルである。眼と口が塞がれたが鼻は塞がれていない忍の鼻腔に潮の香りと汗臭い加齢臭が混じった臭いがした。「ヌグググ」ちゃぶ台に固定された両腕を捻ったり引いたりして何とか逃げようとしている忍。大きく開いた股間には源造が顔を埋めてチロチロとピンクの肉小豆を舐め回す。「ヒグ」猿轡をされた口から喘ぎが漏れる。小屋の窓の隙間から少女とオヤジの行為を写す小さなスマホのカメラとソレを手にするキツネとオカメの面をした小さな身体。キツネの小さな身体には肩に掛けた小さなカバン。オカメの面は手に小さな箱状の黒い物を持っている。オカメの面は窓から離れて入口に向かう。「ヒャイ」右手がちゃぶ台の固定から外れる。懸命に棒か石を探す忍。右手に棒状の物が触れる。「ヒグッ」右手の物を股間の源造の頭に目掛けて振り下ろす。「スコン」竹を叩き切った感覚が右手にする。「へぁ」電池が切れたように股間に頭を着ける源造。時江は源造の尻を捲り源造のいきり立った魔羅をシゴいている。源造の魔羅がビクッとして一段と硬くなる。「あら？いったの？」「源造？久し振りの若いマンちょで行ったんか？」源造はピクピクと痙攣している。短髪にした源造の頭に包丁にしては大きいサイズのナタがめり込んでいる。「ひゃあー。源造！」時江が源造の頭に食い込んでいるナタを抜き土間に投げる。「ゴトン」ナタが土の土間に転がる。「源造！どうしたんな！」身体を揺すっても首がガクガクとして頭皮の間から鮮血と白い豆腐状の物が垂れ始める。「こんなぁ！殺したらァ」忍の細い首に時江の両指が食い込み「ゴガガガァァァ」　忍猿轡の脇からヨダレと白い泡が滴り落ちる。バチン！電球の炸裂音が響き時江は背伸びをしたような身体を伸ばし真後ろに倒れた。目の玉は裏返り白目を剥いている。はだけた浴衣の裾からはピンクのパンツが見え中央部が

滲んでくる。「危なかったね。レッド！」「折角の獲物を盗られる所だよ」

「でも、その武器の威力は凄いね」「ウチのアンちゃん、武器を改造が趣味だから兄ちゃんの部屋の押し入れにまだ有るよ」「ブルーは何を持って来たんだい」「解剖キットだよ。キツネの正体を探る為にね。」「ごめんね。遅く成ったよ」ロボットの面とクマの面の子供達が入って来た。「ピンクは何を持って来た？」「ウチは花火と爆竹」「シルバーは？」「ソコの木に付いていた蜂と大ムカデ」「じゃあさ、腕が外れてる忍ちゃんを縛りなおして、源造と時江をどうにかしよう」忍の右手をちゃぶ台に再度、固定して股間にうつ伏せの源造を引き摺り剥がした。白目を剥いて口から血の泡を出している源造。股間からデロンと黒紫の魔羅が垂れ下がる。「ブルー、知っている？源造のチンチンに真珠が埋め込んでいるんだって」「真珠なら宝物だ！取り出そう」源造のデロンと力無く横たわる魔羅を割り箸で摘み眺める。「三個、コリコリしたのが有るね」ブルーと呼ばれた少年は布製のカバンからプラスチックケースを取り出した。「シルバー！時江を縛り上げてて！」「分かったブルー」「胸がはだけた時江を小屋に有った荒縄で縛り上げた。デロンと垂れて乳首が褐色色した乳首が乳房の上下に縄を通されプクっと膨れ、とんがっている。紺色の浴衣を剥がし股をM字に開脚させて太もも、足首を荒縄で縛り上げ口に源造の小便で濡れたパンツを押し込み荒縄で縛り上げた。「レッド！どうするの？」「源造のチンチンに入っている真珠を取り出すよ」ブルーから渡されたメスで源造の紫がかった魔羅をビニールの手袋をした手で伸ばし、コリコリした物にメスを走らせた。器用にメスをコリコリした辺りに這わすと白い玉が落ちてきた。「本当にあったよ笑」「僕も解剖する。解剖セット、借りて良い？」「良いけど。直ぐに壊さないでね。」解剖セットから注射器を取り出し、液体シリコンと書いた瓶を手に持って時江の元に近ずいた。先に小さな手が時江の腕に延びて乳首を引っ張る。まだ、時江は気を失っている。注射器の針を瓶の中の液体に差し込

みシリンダーを引っ張った。液がシリンダーに引かれ注射器に貯まって行く。乳首を小さな指で摘み引っ張る。プッツンと乳首の先に注射針を刺す。「あぁあん」時江は眼を覚まさない。小さな指が注射器のシリンダーを押して行く。プクっと1センチ程の乳首が3センチ程に膨らむ。「エへへおっきくなった」見れば1センチの乳首が巨峰位の大きさに成り垂れた乳房に着いている。色も紫に成り巨峰のように見える。「次は下を改造！」濃紺の浴衣を開け時枝股間を覗き込む。「あ！時江。大人なのにツルツルだ」時江の股間はムダ毛を処理し、肉の貝の剥き身が2枚、亀裂からはみ出ていた。小さな指が右の肉のビラに伸びて引っ張る。ゆっくりと注射針を突き刺す。ゆっくりとシリンダーを押す。ビラがゆっくりと肥大していく。「ブルー！真珠が3個取れたよ」小瓶の中の真珠を3個、得意げに見せている。ちゃぶ台の忍は四肢を固定され動かない。股間の源造の流した血が股間で乾いて来ている。ブルーは時枝の股間を一生懸命に改造している。ビラは肥大してナメクジが2匹、股間に張り付いている。次は真ん中の肉豆に注射だ。ヒアルロン酸と書いた薬剤便から器用に注射器に吸い込む。ユックリと銀の針先に注射針を刺した。「フガァ」時枝の頭突きがブルーの頭に当たる「ガァ」ブルーの持っていた注射針が時枝の肉の豆にズブリと差し込まれる。「フガ」注射針の根元まで刺さる。「ああ！イッテえ」時江！お仕置だわ。「ピンク！花火を持ってきて」「なにするの？何するの？」「頭突きされたからお仕置」花火の中から爆竹を取り出す。爆竹に動線を繋げて藁に動線を通す。爆竹から藁が伸びた特殊な爆竹が出来上がる。「ピンク！こいつのマンちょに押し込んで。突き当りに穴があるから爆竹を押し込んで！」「分かった！」ウキウキしながら時枝の股間の開いた脚の間に座り小さな手を時江の膨れたビラをつまみ左右に拡げるが膣奥の子宮口迄は見えない。入口辺りに落ち葉を拾うトングが有る。ピンクはトコトコとトングの元に行きトングを手に時江の元に戻る。時江は何をされるのか薄々、気が付が付きマンちょからヌラヌラ、陰汁を垂らす。ビラの縁が褐色したフッ

クらと垂れ下がった小陰唇を右に引っ張り亀裂に銀色のトングを差し込む。7センチ沈んだぐらいで奥に着いた。

「ああイヤぁ」トングの先が子宮口に刺さる。小さな指がユックリとトングを拡げる。トングの銀色のヘラが肉のビラビラを左右に拡げる。「中は暗いよ。」ピンクは持っていた懐中電灯を膣奥に向けた。サーモンピンクを濃くした膣奥に鉛筆大の穴が開いている。鉛筆大の穴に先が砲弾型した爆竹を差し込んでいく。ピンクの小さな指先だから出来る作業。少し砲弾が穴に収まると小さな指先で押し込む。「フゥグッ」時江の下半身の奥に鈍痛がする。半分、砲弾型の爆竹が子宮口に刺さる。「出来たよ。」左右に拡げた。時江の股から藁が伸びている。わらの先には黒い導火線。和なワラワラと子ども達が時江の股に集まる。「行くよ!3・・・・2・・・・1」ブルーがライターで導火線に火を着けた。「シュシュシュシュシュ」導火線が周りの藁を焦がしながら膣に入って行く。トングに押し広げられ悠々と煙を上げて膣奥に入って行く。「ヌヌヌッ」時江は膣から立ち上がる煙と膣壁に少しの熱さを感じた。「ボファ」「フグッ」股間から光が漏れた。途端に時江の体が跳ねる。膣に刺さるトングの間から煙が上がる。時江の眼には涙が溜まっている。「どうなってるの?」「まだ、管は入らないよ」「じゃあもう一度」時江は泣きながら首を横に振り嫌がる。「どうする?ブルー。このまま、大ムカデを入れる?」ああ!嫌やぁ。猿轡をされて声も満足に出せない状態か絞り出す。「もう一度、してみる」ピンクは爆竹に藁を通して再度、時江の膣口に爆竹を押し込む。すんなりと爆竹全体が子宮口に収まる。「着けるよ」「サュシュシュシュ」黒煙を上げながら膣口に赤い火が入っていく。「ドウムッ」「クハァ」「カアァ←」荒縄の猿轡からヨダレをたらし苦悶する、時江。ブルーが膣を覗き込みます。「うん。ガラス管が入るだけ拡がった」ガラス管に入った大ムカデを子宮口に突き刺す。ガラス管の先をライターで炙ると大ムカデは苦しそうに子宮に入っていく。時江の下腹部の奥にモゾモゾとした感触がする。「次に女郎蜘蛛が入ったガ

ラス管を子宮に差し込む」ムカデ、蜘蛛、ゲジゲジ、小型の蛇、ブルーは色々な毒虫を時江の子宮に入れていく。「ブルー、そんなに毒虫を女の股に入れて意味があるの？」「これは蠱毒の儀式と言って毒虫を戦わせて勝ち残ると妖力が手に入るんだよ」「何方にせよ、時江さんのマンちょは使い物にならないケドね」時江は泡を吹き、体は震えている。トングが刺さる股間からは鮮血が垂れている。大きな瞳を閉じて涙が流れている。時江の子宮内ではムカデ、蛇、蜘蛛が暴れ廻り子宮壁に傷を付けている。２０分ほどして、細長いマドラーのようなスプーンを子宮口に差し込み、虫類の亡骸を掻き出す。血と体液に混じり蜘蛛、ゲジゲジ、蛇が掻き出される。最後に蠕きながらムカデが出てくる。最後まで生き残ったのはムカデで有る。ピンセットではさみ、ムカデをビーカーに入れる。「この大きなビラビラは要らないよね」「切りとっていい」薬用シリコンを打たれナメクジ大に肥大した肉の小陰唇を指先で弾きながらブルーが時江に答えを聞く。「ガキ！クソガキ！絶対に殺す。」ブツブツと呪いのような独り言を呟く。「殺されるの嫌だからどうする？」「退治！」「退治！」子ども達から退治の大合唱。「では時江の解体をします」医療用シリコンで肥大した乳首をピンセットで摘み根元をスッと撫でます。乳房から巨峰のような乳首が離れます。それを慣れた手付きで瓶に入れます。左右の乳首が切り離され瓶に入れられます。「次は股間のナメクジと肉の豆を切るからね」時江はブルブル震えて「誰にも言わない！誰にも言わない」ガチガチと震えながら小さく喋る「大人の事は信じないよ。ましては嘘付き時江だからね」ピンセットで肉のナメクジを引っ張り根元にメスを這わす。「フグッ」ナメクジが亀裂から離れ切り口から血が滴る。もう片方も同じで感じで切り離す。時江の股間は一本の筋になり鮮血が滴る。「チョット、退いて」ブルーがハンダゴテのような医療用止血具で時江の止血をしていく。「シュシュ」乳房の先から煙が上がる。ツルツルの乳房の上に赤い痣が出来上がる。止血具を持って時江の股間の間に座り込む。「シュシュシュシュシュ」股間から煙が上

がる。時江の顔からは珠のような汗が滴る。乳首後に塗った軟膏には止血剤と睡眠薬が入っているらしくウトウトと時江はしている。縛り上げた時江を忍の股間に運ぶ。「忍！生きて帰りたい？」「忍はブンブンと首を縦に降る」「じゃあ言う事を聞く？」忍の右手の拘束を説いて手に源造を殺したナタの柄を握らす。「せいので振り下ろすんだよ。言う事を聞かないと時江に引き渡すか、国道に全裸で捨てるから」「フグッフグッ」時江が暴れだす。力いっぱい動くのでシルバーの力では抑える事が出来ない。、「黙らすから」時江のマンちょに警棒型のスタンガンを挿入する。押し込むと奥に当たる。ブルーが持ち手に有るボタンを押す。「ポム」時江の身体は伸びをして忍の股間に頭を埋めた。「忍ちゃん。手元の棒で股間に横たわる頭を叩いて！嫌なら時江に売られるよ」「沖縄って良いよね。でも、売春するんだよ。外人の相手もするのかな？」「黒人のチンチン、すごいんだよ」「おマンちょ壊れるね」「何か、嫌がっているね。時江、起こして逃げよう。忍がどうなるか知らないよ」「ああ！嫌！叩くから」ブルーは忍の右手に棒をもたせた。重さに任せ時江の頭部にナタが食い込み。「カヒュ」ナタは頭頂部に食い込み、白い脳漿を吹き出す。横でシルバーとピンクがカメラとスマホで撮影している。「もう１１時だね。忍は正吉君ちに泊まらせることは出来る？」「良いよ。正吉君も家で泊まりなよ」「アンちゃん、今年から都会の大学だから部屋は有るんだ」「じゃ忍ちゃんと正吉君泊まろう」炭焼き小屋の電気を消して、手ぬぐいで辺りを拭き取る。忍の縄をほどき、目隠しを外す。「これ、忍ちゃんが殺したたんだよ」足元の源造と時江の亡骸を忍に見せる。「何回も叩くから頭はグチャグチャだよ」「忍ちゃん、二人も殺したら死刑か無期懲役だね。」「とりあえず、正吉君ちの病院にいこう。今日はオジサン、学会でいないよね」安江が寝てるよ。安江は僕には何も言わないから。安江は正吉君の継母だ。正吉君のママが家を出て直ぐに再婚した。パパよりも２０歳も若い。すぐ上のセイジ兄ちゃんは今年から都会の医大に通っている。パパがいない日は安江と正吉君の二人だ

けで広い屋敷に住んでいる。鍵を開けると、ガウン姿の安江が出てきた。「今日はタックンとタックンの従兄弟も泊まるから」安江は普段から正吉やセイジに何も言わない。正吉の父親からは医大に入りさえすれば何も言わない。干渉しないと言う事を言われている。タックン、コートで隠した忍、正吉は2階の自室に入って行った。部屋に入り直ぐにドアの鍵は描けられた。「カチン！ガチャリ」二重に内鍵を掛けた。部屋の中には小型のシンセサイザーが置いている。防音設備は完璧になっている。「コレ、邪魔だね」忍を包んでいたコートを剥がす。炭小屋に有ったコートなので薄汚れている。「タックン！忍をお風呂に入れよう。」「そうだね。血も着いているし、炭でドロドロだよ」「おマンちょにも時江のヨダレと源造の血と唾液がベットリ着いて固まってるよ」忍は黙ったまま、裸でバスルームに入る。子供部屋にもバスルーム、トイレが付いている。タックンと正吉も素っ裸になりバスルームに入る。「うわ！きったね」バスブラシで忍を擦り出す。Dカップある忍の胸を擦る。バスブラシの豚毛で擦られた忍の乳首が大きくなる。正吉が面白がりコネ回す。タックンはツルツルのマンちょに手を回し血を洗い流す。黒い炭と血糊がお湯に流され排水口に流れる。「正吉君、ドコに着ける？」「乳首は目立つし、耳も学生は目立つからアソコのビラビラしか無いんじゃない」「そうだね。慣れたら痛みも無いし誰にも見られないから良いんじゃ無い？」「そうだね。ピアスは透明だし」「あ！タックン！お兄ちゃんから新作を貰っているんだ！ソレを着けよう」「へーショウジ兄ちゃんは何でも持っているね。」「コレだよ」銀色の大型注射器をジュラルミンケースから出した。「流石に凄いね。針が布団バリ位は有るよ」「外国ではマイクロチップを身体に埋めるのが流行って　いるって　」「　すごいね　誰かに埋めたの？」「　先日花ちゃんに埋めたよ」「　痛がってた」「　麻酔の軟膏を使ったから大丈夫だよ」「　ちょっと待ってね　。スイッチ入れるよ」部屋の隅のスピーカーから花ちゃんと弟のじゃれ合う声が鮮明に聞こえる。」「凄いね。ドコに埋めたの！」「花

ちゃんが寝ている時にマンちょのツルツルの土手」「痛く無いの？」「針の大きさに比べたら痛く無いよ」「で！忍ちゃんは？どこに埋めるの？」「色々、手伝いして貰うから、クリトリス横のビラビラの中」「何でソコ？」「クリトリスの横のビラビラの中だからね。チップにはバイブ、電流、マイク、ＧＰＳが着いているし、外すのは特殊工具がいるからね」シャワーの音で忍には聞こえていない。忍がシャワー室から出てきた。正吉とタックンはバスタオルで忍の裸体を丁寧に拭いた。「じゃ、しようか？」

「そのベッドに横になって、マンちょのビラビラを広げて」裸でベッドに座り込む忍。「これ、見る？」パソコンに画像が流れた。映像には忍が源造の頭をナタで叩き、殺害する映像が流れる。次に時江の頭を叩き殺害する。「タックン！お父さんに連絡をして警察をよんで。言うことを聞かないから逮捕してもらうよ」「正吉君！警察よりも映像を源造のヤクザ仲間と時江の仲間に流そうよ。リンチして殺されるよ」「じゃ、流すよ」カチャカチャとキーボードを叩く音がする。「いや」「アレも嫌、コレも嫌」「じゃ警察にしようか。タックンちのお父さんに電話して」「二人、殺害。時江の仲間が刑務所迄、殺しに来るね」「分かった。電話してビデオを見せるよ」「イヤー！辞めて！言うことを聞くから」「じゃ忍ちゃん、ベッドに横たわって足を自分で抱え込んで。仰向けでオシッコする感じだよ」素直に従い、忍はバスタオルを体から脱ぎ、仰向けに横になり両腕で両足を持った。正吉、タックンからは忍のツルツルのマンちょとマンちょの亀裂からビラリとでた肉の唇と亀裂上部の肉の小さな豆が見えた。正吉が机の引き出しからジュラルミンケースと白い軟膏の入った瓶を手にしてベッドに横たわっている忍に近づきベッドサイドに座る。タックンは忍の開いた股間の間に座る。「タックン！その肉のビラビラを指で開いてくれる？「いいよ。」タックンの指が忍のビラビラを左右に引っ張る。左右に伸びたビラビラの上部に肉の小さな豆が見えた。豆をガードするように包皮がふくらんでいる。指に軟膏を載せて包皮をもみしだく。「あっ！くうん

！あっ」異性のソレも年下の少年達に性器を弄ばれ少し忍は興奮していた。ジュラルミンケースから太い銀色の注射針を手に取り軽く包皮を刺した。痛がった様子も忍は見せない。包皮に特大注射針を刺した。「あっうん」忍は痛がる素振りを見せずに喘いだ。包皮に刺さった部分が少し膨らむ。直ぐに注射針を抜き、膨らみを確認した。包皮の中にコロコロとした異物が確認できる。軟膏の効能で血液も垂れない。「タックン！面白い物見せたげる」小型のリモコンのスイッチを正吉が押した。「ハウウゥワ」クリトリス横の包皮が振動仕出した。股間を手で抑えて悲鳴を上げないように耐えている。「次ね。」「バウ」雌犬の叫びを上げてベッドに真っ直ぐに伸び小刻みに震えている。「正吉君、何かしたの？」「うん！マンちょの豆に電流を流した」

「ガグググ」額に汗を流しながら耐えている。正吉はボタンから指を離した。「僕たちの命令を聞かないとお仕置だからね」「でさぁ。タックン。これ以上の話を聞くならタックンにもマイクロチップを入れないと駄目なんだよ。どうする？嫌なら絶交だし皆でイジメるよ」正吉君の笑っていない眼と横で気絶している忍の様子に「分かった！入れるよ」タックンは即座に返事をしました。「じゃパンツを脱いでチンチンを出して」「え！チンチンに針を刺すの？」「当たり前だよ。腕とかなら直ぐに取り出す奴が出るよ。鉄ちゃんも入れたよ」ズボンのベルトを外し白いブリーフをずりおろしました。少し陰毛の生えた、中学生らしいペニスが少し膨らんでます。「自分で軟膏を塗って」正吉から軟膏の瓶を渡されます。中の軟膏を指で掬い膨らみ掛けたペニスに塗り込みます。少し膨らんだが軟膏の成分で萎んでいきます。「じゃ、打つね」ゴム手袋をした正吉君がタックンのペニスを指で摘みペニスの裏の革の部分に針を差し込みます。シリンダーを押すと空気圧で直ぐにマイクロチップはペニスに収まります。指で摘むとペニスの裏がコリコリしています。タックンがブリーフを上げてズボンを履きます。「コレからの目標を言うね。最終的にこの市を僕たちで乗っ取る。その為にはお金も必要

だし、政治家も必要になるんだ。お金は忍や花ちゃんが中心でＪＣやＪＫの売春組織を作る」「次に暴力。鉄ちゃんに頼んでいる。街の半グレや暴力団を使う。鉄ちゃんは空手の有段者で空手推薦で街の高校に進むからソコで暴力専門組織を作ってもらうよ」「タックンは売春組織の管理と僕の指示の実行。正確に実行してね。」「タックンを傷め着けたく無いから。指示には従ってね」タックンは正吉君が怖くなりましたが軟膏の催眠剤が利いて眠りに着きました。翌朝、正吉君の継母の運転する車で家まで送って貰いました。後部シートにはブラウス姿の忍も座ってます。「タックン！後で学校でね。忍ちゃんは今日は休んだ方が良いよ」家の前で車から降りて、タックンと忍は無言で家に入りました。「タックン！お風呂に入りなさい」お母さんに言われ風呂場に行きました。ズボンを降ろし、シャツを脱ぎ、ブリーフを下ろしました。自分のペニスを弄りました。やはりペニスの裏にコリコリとした物が入ってます。忍も部屋に閉じこもり布団を頭から被っています。右手をパンティに滑り込ませクリトリス脇の包皮を捏ねます。やはり、コリコリした異物が入っています。正吉から車を下りる際にビタミン剤の錠剤を渡されました。それと黒いリモコンスイッチ。白いＤＶＤは絶対に見てね」家には母親がいました。「畦道で怪我をしたの?正吉君のママが教えてくれたわ。夜に電話を貰って入院させるからって。又、お礼に伺うわ」シャワーも浴びずに2階の自室に入り、ベッドに横たわった。昨日の事が夢のようで、催眠薬の効果が抜けずにボーッと渡されたＤＶＤを気怠そうに起き上がり、枕元のデッキに挿入しました。砂嵐の後にブルーのヒーローの仮面を着けた人物が映ります。「コレから見せるのは本当の映像だからね。忍がやった事だから」画面が変わると忍が全裸にされて源造に股間を舐め回され、乳房を捏ねられている映像が映し出されます。源造の下腹部に手を廻し時江が源造のチンボをしごきながら、もう一方の手をピンクのパンティに入れて陰部を弄ってます。映像の忍の縛られた右手の拘束が外れ手元のナタを手

繰り寄せて源造の頭に振り降ろす瞬間が映像に映し出されます。血と脳漿を吹き出し、忍の股間で震える源造。怒り狂い忍の首を締める時江。そっと時江の背後に廻り首に棒を当てる仮面の少年。泡を吹きながら倒れる時江。時江を裸にし荒縄で縛り上げ、乳首や性器を弄ぶ画像。乳首に注射針を刺している映像が流れると忍は興奮して来た。正吉から渡された黒いリモコンのスイッチをバックから取り出し、スイッチを入れた。包皮に埋まったマイクロチップが小刻みに震え、振動がクリトリスに伝わる。子宮にムカデが入る瞬間、映像を止めて何度もクリトリスをしごく。忍には元からＳっ気が有るみたいだ。膣からムカデが這い出てくる映像で又、逝った。そして自分が時江の頭をナタで叩き殺害したのも分かった。正吉から渡されたポーチの中には白のカプセルとピンクのカプセルが小袋に一粒づつに、入っていた。ＤＶＤには正吉からの指令で学校の美人な娘にダイエットサプリと言って配れと指令が入っていた。自分が飲むのは白のカプセル。友人、先輩、後輩にはピンクのカプセル。無くなったらタックンから補充しろ、後、友人達を誘うために毎月２０万円の活動費を出すから街で美人な友達を作れと指示されサプリの奥から封筒に入った２０万円が出てきました。翌朝、中学の制服姿のタックンが朝に迎えに来ました。「忍ちゃん。正吉君から伝言。一ヶ月で１０人のノルマ
。お金は幾ら使っても良いから。ノルマが達成出来無ければ時江の仲間に映像を流すって。流されたら、外人にマンちょ壊されて海外だね。頑張って」忍の通う学校は2年前に女子校から共学になったばかりで女子生徒の数が多い。先にバレーボール部の意地悪な先輩からサプリは配った。「先輩！家の親戚の子の親がビタミンサプリやダイエットサプリの輸入をしていて協力して貰えたら1週間で７千円を謝礼で渡すと言われているんです。私も試すのでしませんか？」「７千円？話が旨すぎないか？」「私も今、飲みます。お金も先払いなんで今、７千円は渡します」そう言いながら忍はシロのカプセルを飲みこんだ。「忍の親戚なら、飲むよ」忍はピンクが朝に

カプセルを先輩に渡した。先輩はカプセルを飲み込んだ。直ぐに忍は先輩にミネラルウォーターを渡した、。「先輩！先払いのお金です」「カプセルは朝、昼、夜です」忍は２１袋、先輩に渡した。「先輩！１週間後に海辺の病院で検査をしますからね。ちゃんと飲んで下さいよ」「他の先輩も協力してくれますかね？」「あやかならアタシが言えば従うよ」あやかは３年だが補欠で他の３年からはイジられていた。「じゃ、あやかさんの分と謝礼は先輩に渡します」「先輩！今日は部活、休みます。頼まれたモニターを急いで探さないと行けないので」言い終わると部室からでた。スマホでタクシーを呼び学校の裏門から外れた場所でタクシーに乗り市街地に向かった。

第二章　　怒りのアリス

小屋での惨劇から３日後、炭小屋の横道を柴犬を散歩させている小さな老人がいた。今日に限って犬が脇道の獣道に行きたがる。犬がグイグイと老人を獣道に誘う。炭小屋の前で急に吠えだした。しきりと小屋の扉を掻きむしる。老人は小屋の扉を開けた。中からはハエや虫が飛び出す。土間の真ん中には頭を叩き割られて絶命した源造と縛られ乳首と小陰唇を切取られ、性器を焼かれた時江の亡骸が紫色の肌を夕焼けに染まりながら絶命していた。直ぐに老人は警察に連絡をした。田んぼの畦道にパトカー、ワゴンが数台止まり獣道に警察関係者が入って行った。源造のペニスは裂かれ、何かを抜かれた傷が何本も着いている。時江の性器は焼かれ股間に黒い筋が着いているだけになっている。凶器の刃物は現場に無い。小さな港町を騒がす事件になった。死因は刃物による頭部への切りつけ。死後、５２時間前後。直ぐに警察署に源造の父親、時江の夫の権蔵が任意で呼ばれた。死亡時刻には街のキャバクラで酒を飲んでいた事を店の者と客が数人、目撃していた。２日後に時江、源造の葬儀が行われた。街の名士だけ有り葬儀には大勢の弔問客が訪れた。中には街の地廻り者もいたが、親族席に小麦色の肌にサングラスを掛けた女子レスラーのような黒いスーツ姿の２０代後半の女性と同じ、黒の

スーツ姿の男が二人。地方都市の葬儀には似つかない男女が座っていた。権蔵が褐色の肌の女性を別間に通した。「地廻りから聞いたんじゃが誰も源造には手を出しとらん。昔にいた、隣の都市の組織は別じゃが。お前の沖縄の組織は揉め事は？」「私と時江は縁を切ってる。時江の事を知るのは私と源造、権蔵だけだ。」「私は姉の敵は取る。部下と隣町の組織に当たる。」「あまり、無茶はするなら」「権蔵！お前が守らないから時江は殺された。先に権蔵から始末してもいいが？」「物騒な事は言うな」「地廻りには話はつけたし、県警も多少は黙る」仏間で十字を切りスーツ姿の男と女は部屋を出て行った。「権蔵さん、あれらは」「時江の腹違いの妹。アリサだよ。沖縄の売春組織を仕切っている」「時江の仇を取るんだと。外人の男は元兵隊だよ。」アリサは駐車場の黒のランクルに乗り込み葬儀場を後にした。

第三章　アリサの虐殺

「ふぐぅふー」背中に龍の彫りを入れた男がベッドに縛られ猿轡をされている。ベッド横の床には裸の女が泡を吹きながら絶命していた。首は後頭部に折れ曲がり首に着いていた。「何か知らんのか？お前、源造の兄貴分だろ？」アリサは男の猿轡を外した。「アイツが逃げてからは何もしてねえ！アイツを殺しても俺に得は無い！」「何か街で変わった事は？姉貴から女が送られる人数が減った。」「最近はガキ共が美人局や色々な事をしてんだよ！捕まっても未成年だから！」「縄をとけよー！」アリサの右手が男の喉仏を摘み捻ると其のまま絶命した。スマホを持ち権蔵に連絡をした。「あたしだよ。隣町のラブボ街のパムルってホテルの３０３、２人が転がっているから始末を頼む。後、この当たりのガキやギャルが遊んでいる店を教えてくれ」権蔵は店を数件、教えた。一軒目は半地下に有るクラブだった。店には男が３人と女が４人、たむろしていた。サングラスにリーゼントの昭和初期君がアリサに絡む「酒か？薬か？男か？」ニヤニヤ笑いながらアリサに近づく。アリサの頭が下がる

と同時にリーゼントの顔が吹き飛びクビが稼働域を超えて廻った。アリサの軍隊仕込みの格闘技は簡単に人が殺せる。アリサと部下は生き残りのかから女だけを選び男は殴り殺した。「この街で薬と女を仕切っているのは?」ハーフパンツを濡らした女が下を向いて震えている。一直線にハーフパンツの女に近づき小ぶりの胸をアリサが揉みしだく。「知っているよな?」「知らないよ」アリサの手が首の大きく空いたネック部分より滑り込み、ハーフパンツの乳首を括る。「アタシの握力ならコーラの蓋も開くけどね」引っ張ると乳首がネックの隙間から赤い糸を引っ張りながら出てきた。「アンタは知ってんのか?」ハーフパンツ横のピンクのチューブトップに手を掛けて下に下げた。日焼けした肌と白い乳房がフルンと出る。アリサの手が乳首に延びる。「隣町のザイグルって店に出入りしている忍って普通の娘が売人だよ」惨劇をモニターで見ている男がインカムで話しかける。「男は全て殺られた。女は後、3人は無事。1人、白人が盛って、女を犯しそう」「ネズ!モニターをコチラに廻すことは出来る。一人、兵隊を減らすよ」カチャカチャとパソコンをイジる。「ボム!見えるか?」「バッチリだよ」アリサの白人の兵隊がミニスカートからパンツの見える超ミニスカートの女に興味を持った。女の耳から下がるイヤリングにはDのイヤリングが揺れている。強引にキスをして荒々しくパンツをずらす。女の表情が恍惚としてくる。白人の男に欲情しているよりもトロンとした眼をしている。「ハウウゥワ」パンツをずらし白人の男が女の膣にペニスを突き刺す。「ドン」女のスカートが風圧で浮き白人の男の下半身は吹き飛び股間の穴から血が吹き出ていた。ミニスカートの女の股間は穴が飽き、血が内臓と一緒に垂れていた。顔は恍惚に笑みを浮かて天国に逝っている。「ガッデム」アリサは鬼のような形相で倒れた白人の男の亡骸を見ている。外が騒がしくなった。通りの通行人が警察に連絡をしたようだ。「ヤム!女を一人連れて行く。店を出るぞ。ジムはそのままだ」股間を飛ばされたジムは股間から鮮血を吹き出し倒れてる。ヤムが小柄な女を肩に担ぎ揚げた途端「ドド

ン」女の尻が破裂しヤムの肩から鮮血が流れる。「ノゥ」「ヤン！すぐ出るぞ！女に爆弾を仕掛けて、何処かから見てる」胸元から銃を出してスプリンクラー、カメラ等を撃ちながら店から出た。ヤムは右肩を負傷し、ジムは殺られた。動けるのはアリサだけだ。地方の都市に大規模な組織が有るとは考えておらず、一度、沖縄に退避し反撃の準備をする必要が有る。源造に電話をして脱出する手立てを相談した。「夜に知り合いの漁船で空港の有る市街地の港に連れて行く。夜の１２時に港に来い」とりあえず、負傷したヤムを車に乗せて市街のモーテルに逃げ込んだ。

第四章　　アリサの処刑

マイクロバスが2台、海辺の白い建物内に入っていく。玄関に止まるとバスから１０代後半のから２０代の女性ばかり出てきた。全員の女性が顔を赤らめ発情期のような状態になっている。一台目のバスからは学生ばかり、2台目のバスからは風俗関係や水商売関係。赤い看護師服の女性に連れられ建物内に入る。正吉と隣に大学生風の学生が5人、立っていた。「正吉！時江の事は上出来だ。」ショージは正吉を褒めた。「兄ちゃん！忍も仲間に入れたのスゴイでしょ」「ああ！今日も２０人だ。ジョー兄ちゃんと二人で検査して改造するからな。おまえも医学部か法律。何としても大学は入れよ。この県を仕切るんだからな」「兄ちゃん！沖縄から来た時江の妹はどうするの？」「権蔵から連絡で今日の夜に捕獲する」「おまえも又、見るか？」「分かった！タックンも呼んでいい？」「仲間は呼べよ。だが、仲間と兵隊は区別をつけろよ」宵闇の中、黒いセダンが港に着いた。中からは肩を負傷したヤムとアリサが出てきた。恰幅の良い権蔵がアリサに金を渡し「地方の田舎街だが物騒な組織はいるからな。当座の金だ。後、警察も捜査してる。当分は街に来るな。沖縄で体制を立て直せ」茶色の札束が入った封筒をアリサに渡した。「当分は女も無理だからな」漁船が着岸しアリサが乗り込んだ、ヤムも乗り込み船室に降りた途端に拳銃を突きつけられ甲板に

上がってきた。アリサは咄嗟に空手の型を構えた。「トン」アリサの身体に防犯用ネットが絡み身動き出来なくなった。「権蔵が裏切ったのか！」「今更、わかるか？権蔵は時江の浮気を恨んでいたのさ。それも息子の源造と。直ぐにうちに始末を頼んで来たよ。沖縄の組織と密輸武器を手土産にな」「沖縄の組織はアタシが帰らないと言う事を聞かないよ！」「馬鹿だね。アンタ、組織でも嫌われているよ。ヤムも寝返ったし」「チクショウ！勝負しろ！」「馬鹿だね。格闘家と勝負する奴はいないよ」「アタシをどうするんだよ！」「この当たりに昔から伝わる処刑方法で始末をするよ」白衣に覆面をした男がアリサの腕に弛緩剤を打った。アリサの身体から力が抜けていく。黒のスーツを脱がし、Ｅカップの胸をさらけ出し、パンティを脱がし四つん這いの体勢にして船のウィンチに縛り付けた。手足をダラリとたらし、栗毛の股間の陰毛とベージュの小陰唇とピンクの膣がライトの明かりにてらされた。尻の上に懐中電灯を付けて、首にもライトを付けてウィンチに垂らした裸身を水際に降ろす。クビと尻のライトをリモコンで消し、船のライトも全て消す。真っ暗な海に沈むか沈まないかの状態でアリサが波に揺られる。船のサーチライトを船から１０メートルの所を照らす。水面に銀色の魚影が浮き上がり飛び上がる。１００匹ほど群れた所でサーチライトを消し、アリサの身体のライトをリモコンで付ける。「ビシャビシビシャビシ」アリサの身体を銀色の細長い魚体が穿く。大きな乳房に４匹、股間の割れ目に１０匹。アリサは眼を見開き絶命していた。股間の魚は奥に潜ろうとしている。胸に突き刺さった魚が動くたびに巨乳がブルブル揺れる。船上からはショージがカメラで撮影している。人体に突き刺ささった魚はダツと言い夜の漁師の間では恐れられている。光に飛び込んで来るのでライトやライトに光る目に飛び込み、何人かは毎年、亡くなる。アリサの波に揺れている体が一瞬、沈んだ。ロープには両手と両足と頭しか着いていない。内臓がゴッソリ失くなっていた。血に集まったサメに食われたのだろう。ウィンチからロープを外すとアリサの亡骸は波間に沈んだ。「ヤム

！仲間にする代わりにチップを入れろ。」漁船は進路を変更して海辺の病院に向かう。着岸しヤムを病院内に案内をして直ぐにマイクロチップの挿入手術をした。いつものペニスでは無く、心臓の横に小型爆弾兼全ての通信機が入った最高級品を埋め込む。沖縄の組織が手に入った事は大きい。ヤムは1週間後に沖縄に帰った。

第5章　人間兵器と生徒会

正吉らは街の進学校に行かずに忍の通っていた数年前に男女共学になった高校に進学した。忍は隣町の女子大の看護科に通う。正吉が進学校に行かなかったのは、受験に学校は関係無く学生の7割が女子なので決めたようだ。正吉、タックンは同じ高校。鉄ちゃんは空手の推薦で街の高校。花ちゃんは来年度に高校。鉄ちゃんは街の高校と暴走族を仕切っている。もちろん資金は正吉が出している。タックンのお父さんは警察幹部。正吉君は家族で医院グループを経営。花ちゃんちは県を仕切る暴力団。小さな街で、よくも揃った子どもたちも時江の惨殺から2年。鉄ちゃんは１８０センチを超えている。家業の米屋はスーパーになっている。花ちゃんはバリバリの金髪ＪＣ。タックンは医者か薬学を目指している。子供の頃の夢。県を仕切ると言う事を実行している。「正吉！いる？」花ちゃんが髪のショートの少女を連れて生徒会室に入ってくる。「ココは他校の！」

「夏美！構わない。少し教室から出てくれ。今日は帰って構わない」夏美は正吉に言われてカバンを持って教室を出た。「花ちゃん！その子？借金２００万円を踏倒そうとしたの？」「そう。ウチの者が駅で見つけて連れてきた」「悪さはしてない？」「バージン以外は価値ないよ」「一応はしてないって」青白い顔で立ち尽くす少女に「そこでパンティ脱いで机に座り股を開いてよ」と命令した。「タックン！もう面倒だよ。香港のワンに電話。三百で買うでしょ。」「あらあら、ワンなら手足切られて人形だわね」花ちゃんがボソッと呟く。」言われた少女は急いでパンティとスカートを降ろし、机の上に股を開いて座って性器を自分の指で開いた。「最初から言われた通りにしないと次は無いから」「タックン！ファイバースコー

プ、持って来て」タックンが棚からファイバースコープを持って来た。黒いカバンのチャックを開ける。中からは黒く伸びた鎌首を動かしながら、レンズ上部にライトを付けたスコープが出てきた。正吉の手元の操作で左右に動く。「花ちゃん、脚を抑えて」花が少女の白い脚を両手で抑える。「コイツの名前は？なんていうの？」「このみ」「へーこのみちゃん、援助で抱かれて無いよね」喋りながら恥丘に産毛しか生えていない丘を手で抑えてその下のピンクの膣口にスコープを滑り込ませる。「うっ」

「おい！膜が破れたら香港だぞ」震えながらこのみはジッとしている。「カシャ！カシャ」「花ちゃん！何とかバージンだわ。金は３００！」「安くない？捕まえたのうちだよ」「どうせ、花の小遣いだろ。プラス５０」「分かった」花は渋々、従った。花は昔から正吉が好きなので、正吉の言葉は聞く「タックン！小切手渡して。後は家から車を呼んで」タックンは正吉の秘書のように動くが昔から正吉とは馬が合う。イジメられていたタックンを助けたのも正吉だ。後、タックンは根っからＳだから正吉と女体を陵辱するのが一番、興奮する。「タックン！権蔵さんの依頼、何時にする？」「あ！又、後妻の浮気相手と後妻の始末」「夏だし海で殺る？」「そうだね。拉致は鉄ちゃんの兵隊で花ちゃんも呼んで。後、前のダツは直ぐに終わったから次は長続きする奴にしようか？」「そうだね」高校の生徒会室で会長と副会長が拉致して陵辱、惨殺の話をしている。生徒会の机の上には下半身を出した少女が泣いている。「正吉君、この子は？」「ああ！今、武器商人のマックス大佐が来ているから御土産。」「あの外人、ロリコンのバージン好きだからね。ちょうど、良いね」「君、明日から沖縄だよ。上手く行けばアメリカだ」コンコン！生徒会室の部屋がノックされて、白衣の救急隊員が生徒会室にストレッチャーを押して入ってきた。「さようなら」口にテープを張り救急隊員が少女をストレッチャーに固定してシーツを被せて部屋から出ていく。部屋に女教師が入って来た。「何か有ったの？」「下級生が貧血を起こしたから家の救急車で運びました」「そう」

女教師は大人しく出ていく。学校の職員は正吉達に何も言わない。一番の寄付を出す家だし正吉も学力優秀だから文句が言えない。「タックン！ウチで今日は忍の集めた女の仕分けと改造が有るけど来る？」「何時から行くよ」「夜の7時から」「一度、帰って行くよ」カバンを持ち部屋から出ていった。夕闇のロビーに女性が３０人程、入って来た。正吉とタックン、花ちゃんはロビー2階から眺めている。黒いスーツの上下姿の女性が女性を仕切る。「忍、変わったね。堂々としてるよ」「人を殺めたら人って変わるのかな？」「変えたのはあたし達だけどね。」「でも、スゴイSだよ」学生風の１０人ほどはナースが連れて行った。バージンなら使い勝手が良い。ＪＣ．Ｊkは花が連れて来るが水商売や風俗関係は忍に任せている。忍が2階に眼をやる。手を招き忍を呼ぶ。エレベーターが開き忍が近寄って来る。「今日は３０人程？」「最近、広域組織が入って来て中々ね」「花、親父さんから聴いてる？」「関西の組織が入って来てるらしい」「ウチとはまだ対立してないけどね」「面倒だね。」「まっ何か有ればウチの兵器で潰せば良いし、沖縄を動かしても良いし」「ソレより動画、見る？マックス大佐のセックス」「あ！昼間のバージン少女？」「そう。セックスと言うかスプラッタだな」タブレット画面をテレビに転送する。「フグギギ…」白人が少女の小ぶりの乳房に歯を立てギリギリと噛んでいる。子供のような顔は苦痛に歪み、眼からは大粒の涙が滝のように流れる。「いつ見ても噛んでいるな？このオヤジ」「何かアフガンとか中東のゲリラの少女を拷問して癖に成り沖縄に飛ばされたとか？」「でその性癖を金に変えてる」「変態は金に成るからね」「その映像も売るの？」「もちろんだよ」泣きじゃくる、このみの胸から顔を上げて笑っている。股間のペニスは弾けんばかりに怒張している。長さはビール大瓶、太さが缶コーヒーの太さが有り、ペニスの所々にイボ状の突起が有る。「あのチンコの改造も正吉君ち？」「ああ、イボだけね。バイブと電流と爆弾」「ボタンでチンコが吹き飛ぶの？」「そう。保険だよ」イボ付きのペニスをこのみのピンクの割れ目にあてがい、

全体重をペニスに乗せた。「イギィ！」このみは眼を見開き血走った眼を空中に走らせたがグリンと白目を向いた。感覚が気絶を選択したのだろう。マックスは気絶した少女に構わず腰を振り、気絶した顔を叩く。「あぁぁ」目を覚ますと「ギィィイー」と直ぐに気絶した。小さな膣口に無理やり押し込みピストンしたせいで上はクリトリス近くまで裂け、舌は肛門まで達している。下半身からはピストン毎に血が吹き出る。「花！あのチンコでしたい？」「あんなの入れたら穴が繋がるよ」笑いながら映像を見ている。やっとマックスが果てた。「直ぐに縫合と治療をたのむ」マックスの部屋に白衣のナースが入って、このみを連れだした。ベッドに横たわるマックスは葉巻を焚べらせている。処置室に連れられた、このみは先に性器の縫合と肛門筋と膣筋の縫合、神経の縫合から取り掛かられる。神経が繋がらないと肛門からは汚物が垂れ流しになり、尿も垂れ流しになる。商品価値が無くなる。胸の噛み傷は後で治せる。医師が二人で治療に当たる。「正吉君、権蔵さんの仕事はどうするの？」「浮気相手の男は？」「肩書はホスト何だけど分かんないんだよね」「いつ来るの？来週？」「ホスト仲間と女の仲間が来るよ」「じゃあ、ホストと女は処分。女の仲間は後で」「忍さん、３０人の検査が終わりました。５人が処女。後は非。１０人は性病検査です。」「全く、病気以外はクラブに、病気は治るやつは治療に。駄目なのは正吉さんに廻して」「あたり少ないね。やっぱり西の組織？」「レディース金融とお水を荒らしてるわ。」「花ちゃんの親父さんに相談するよ。」「排除か抗争か？」「性病治らない娘を地雷に変えてて、抗争で使うかもしれないから」「あの人たち、女が好きだからね。胸のデカい子にニードル銃を埋めるって出来る？抱きついて即死！」「わかりました」翌日、胸がスイカのようなエイミーと言うハーフ娘をチーフドクターが正吉に連れてきた。「おい」エイミーが赤いドレス姿でタキシード姿のマネキンに抱きつく。「ブルッ」タキシード姿のマネキンが揺れた。胸に穴が空いているだけでエイミーのドレスは破れてない。「極細長いニードルだからドレスには

開かない」「スゴイ暗殺武器だね。」「他国に売るには実験がまだ必要です」「じゃあ、来月に権蔵さんの依頼で使うから何人か準備して」「ハイ。」白衣の科学者はタブレットを持ちドレス姿の女性を連れて行った。正吉の実家は総合病院グループが表向きだが裏では各国に売る暗殺武器を開発、販売している。マックスとの関係もそちらからだ。長男ジョー母親はコロンビアマフィアの幹部の娘。次男ショージは母親は白人の科学者。別の病気で合成麻薬等の研究をしている。三男の正吉は母親が何人かは知らない。アジア系の顔からチャイナマフィアの娘、日本のヤクザの娘。色々な事を言われるが分からない。言えるのは兄弟が全員が殺人鬼。長男は医者兼医療器具開発者。次男は薬学者。正吉は医師か法律系を目指し将来は議員を考えている。「忍！売上は達成しろよ。代わりはいくらでもいるんだ」「忍ちゃん！世界中におマンちょは見せたく無いよね」画面ではこのみのセックスシーンがリプレイしていた。

第六章　ホストと瞳の最後

夏終わりの静かな砂浜にマリンジェットの轟音が響く。漁港から離れた砂浜に色とりどりのビキニ姿の女性が3人。金髪にブーメランビキニのホスト風の男が3人。マリンジェットにトップレスの女がマリンジェットを操る男の腰に腕を廻してはしゃいでいる。トップレスではしゃいでいる女が権蔵の3番目の妻、瞳。もとは東京のキャバクラ嬢でいまだに遊びに東京に出ている。男達はホスト。同行の女は瞳の友達である。金髪にピンクのビキニを来たＪＣが砂浜からマリンジェットの女達をみている。花が友達を連れて見学に来ている。ホストが花たちに近づく。「地元の子」「そうだよ。兄さんたちは何処？」「俺たちは東京のホストだよ」「へー凄いね。初めて本物に逢うよ」「友達、スタイルが良いね？高校？大学？」「内緒だよ」花は友達？舎弟で、プロポーションの良い美人な娘を3人連れてきた。東京のキャバクラ嬢よりも奇麗で若い。「お兄さん達、アソコに小さな島と小さい灯台が見えるでしょ。アソコでテ

ント立てて水中セックス！最高だよ」「夜でも灯台の明かりで明るいからね。アソコに海水が入って女は喜ぶよね」夕方に成り、花たちは帰路に着いた。「夜、来ないの？」「うん。花火買ってくる」マリンジェットに荷物を積み、砂浜から１００メートル離れな小島の灯台にホストとキャバクラ嬢は移った。夕暮れの中、酒を飲みながら大麻を吸い裸になる。小島では酒宴が開かれ去声が響くが村落からは離れて波音が男女の馬鹿騒ぎを書き消す。夕闇の中、鉄ちゃんと仲間達がウェットスーツ姿でユックリと砂浜の端、小島からは見えない場所から海に入る。全身、黒いウェットスーツは暗闇の中、分からない。酒を飲んだ男女が海に入り抱きつきセックスを仕出す。事前にオトコは溺死。女は拐う手はずにしている。３人の男は海中から島に近づく。暗視スコープに切替えて男子に近づく。男の尻が女の股を突いている。袋から透明の針状の物を出して男の尻を突き刺す。「あぃ！いて！刺された」男は針を抜こうとするが矢じりで抜けない。３秒後に毒が廻り水中に沈んだ。透明の針はアンボイモガイの毒針で砂浜には結構にいる。女は男が硬直して沈んだのにビックリして島に這い上がる。他の二人は鉄ちゃんと仲間が足を持ち溺れさせた。島に上った女達はスマホで警察や消防に電話をしているが灯台は圏外に成っている。浜辺に灯りがともり、ボートが小島に近づく。ボートには花と正吉が乗っている。ユックリ、ボートが小島に近づく。「何か有ったの？」花が惚けたように聞く。泣きながら女達は男達が水中に沈んだ事を言い警察を呼ぶように言っている。「警察を呼んでも良いけど、ソレって大麻だよね。お姉さん達、捕まるよ」「夜に捜索しても無理だし、荷物とお姉さん達、浜に届けるよ。権蔵さんとこの瞳さんだね」髪のショートの女が頷く。荷物を積み込み、バスタオルを羽織ったキャバクラ嬢と瞳を浜辺に送った。「ウチの病院の車で病院に送るから検査をしたほうが良いよ。毒針で翌日に亡くなるってあるし」女達は素直に正吉の病院のワゴンに乗り込んだ。病院の裏口から中に入れ正吉は権蔵に電話をした。「権蔵さん。瞳、どうしたら良いの？」「今から行く」キャバクラ

嬢と瞳は麻酔で眠っていた。「正吉！一番、エロく残酷に始末をして欲しい」「分かったよ。昨日、届いた魚が使えるか試すよ」「冷たい！」瞳はプールの中で目が冷めた。横にはサナエ、アキナが後ろ手に縛られてプールに入っている。首元に浮き輪が巻かれ溺れ防止策は出来ている。自分達のプールがサーチライトで照らされる。プールの端から袋に入った数千匹の魚が投入された。一斉に女達に向かって泳ぎだす数千匹の魚達。先にサナエが痛がり出す。「アァ痛い痛い！オシッコの穴に入って来る」カンディルと言う南米のナマズの仲間だが人の体液に寄ってきて穴から体内に入り食い散らかす。次にウナギ程の太さのカンディルをプールに入れる。次男のジョージが南米で改良した大型を試すと入れた。普通サイズが3センチだが大型は１５センチ、太さは４センチ程のペニスと変わらないサイズが有る。アキナが泣き叫ぶ「痛い痛い痛い！お尻に入って来る。アガァ！おマンコにも入って来た。」２匹の大型カンディルが尻の穴に割り込んで行く。前の膣口に3匹が競い合い入る。「グォ」サナエが水に顔を漬けたようで鼻、目玉、口にカンディルが群がる。首を振り頭を水に着けたまま動かなくなった。「アアタィ」アキナの股間が１０匹のカンディルに群がられ股からメディユーサの髪の様に銀色の魚体を光らせる。「アァ痛い！お父さん助けて！」瞳の股間にもカンディルが群がり、尻の穴、尿道、膣に入り込もうと藻掻く。下腹部がボコボコと波打つ。アキナも頭を水に漬けて絶命している。「グガァ」最後に瞳が眼を見開き天を仰ぎ絶命した。「やっぱり改良型のが処刑には良いね。小さいのは死なないわ」「正吉！兄さんが映像をダビングして渡せって」花がアイスを舐めながら話しかけてきた。眼の前で同性が食人魚に食べられても動じていない。「鉄ちゃん！船出せる？」「構わないけど」「このまま海に流すよ。コレだけ食われたら浮いてこないしね」プールから亡骸を引き上げて袋に詰める前に腹を裂き、大型カンディルを取り出した。「海水で小型は死ぬからね」３人の体内からは１０匹の大型カンディルが出てきた。「改良型は高いからね」腹からカンディルを取り

出し袋に3人の亡骸を入れて沖合いの岩場付近に亡骸を放置した。
ユックリと髪を揺らしながら白い裸体が消えていった。

第七章　花と権蔵の最後

「パッパッ」金髪の長い髪を揺らしながら花がクラクションを鳴らした車を振り返り見た。黒色のベンツ。窓にはスモーク。明らかに暴力関係者以外は乗らない外車。花が近付く。スモーク張りのガラスが下がる。中には茶髪のそちら関係に見えない優男が乗っている。
「●●会の会長の娘さん？花さんですよね？道を間違えてしまって、会長宅まで教えて貰えないでますか？」いつもは同業者には心は許さないが後部座席に権蔵も座っている。「権蔵さんにも用事が有って一緒に行くんです」ベンツの助手席側に廻りドアを開けた途端に身体に電流が流れ気絶した。そのまま花を乗せてベンツは走り去った。2日後に花の父親の会長から家に呼ばれた。タックン、鉄ちゃんも会長宅に行く。門の前に警官が数人立っていた。路上には黒色の染み。何か有ったと正吉は直ぐに花の自宅に入った。数人の男が撃たれて血を流していた。居間には黒色のカバンが2つ。一つが空いている。カバンから坊主頭が見える。丸刈りにされた首だけの花が何時も自慢していた金髪を口に詰められて顔を腫らしている。花の父、会長は真っ赤な顔で娘の亡骸を見ている。もう一つのカバンには権蔵の首。自分の一物を咥えている。カバンにはＤＶＤが入っている。ＤＶＤには花が拷問されている映像が入っている。丸刈りにされ。口に髪の毛を押し込められ膨らみかけた乳房に伝導釘打ちで釘が打たれている。釘を打つ男を睨みつける、充血した花の眼。次に電動ノコギリにバイブを着けた道具を花の膣に押し込む。「ブィーン」バイブが上下する。花にモニターを見せる。モニターには先日、処刑した瞳が写る。「おまえ達がやったんだよな。瞳のキャバクラ仲間がお前が写るＳＮＳを上げてたんだよ。
お前の親父の組織にいた男から直ぐにお前だと分かったよ。その歳で援交やら薬やら仕切ってんだってな？」「瞳さんは幹部の娘なん

だよ。妾に産ませた娘だから幹部は可愛がってた」「そこの権蔵が始末をお前達に頼んだって吐いたよ」「この状態でも勃起してるよ」「変態だな。親父も何で変態に嫁に出すかね？」「地元じゃ気質は怖がる。東京に出したら変態に。まぁ最初から変態が分かれば嫁には出さんよな！」茶髪の優男、花に声をかけた男が権蔵の一物を切り落とし、口に押し込む。権蔵が眼を見開き首を振り動かなくなった。股間からは血が吹き出している。「金目の物を探したら女を惨殺している動画ばかりだぜ。コイツだけでは無理だろ」カメラがキリンの覆面をした男に向けられた。「このガキは殺す。後は組織同士の話。ウチと喧嘩か手打ちか？手打ち条件は仲間のガキと５０億。車で荷物を持って行くから聞かせろ」「で会長、撃ち殺した？」「当たり前じゃ！花のあげな姿見たら！」画面の花の膣に入ってピストンしていたバイブが亀裂が入りバイブのカスが膣からとびだす。「グヌヌー」剥き身のノコギリの歯が花の膣を切り裂いて行く。頭を振っていた花が動かなくなる。男は上下に電動ノコギリを使い花の両足を器用に身体から切断していく。下半身の切り口からはピンクの袋状の内臓が黄色い卵を引きずり体外に出る。最後に首を切り落としカバンに詰め込んだ所で画面が代わり、キリンの覆面が喋りだす。「このスマホに写る奴は全員を拐う。ソコの会長に早く払って貰え」「スマホは？」「相手先が持っているよ」「とりあえず、正吉、鉄ちゃん、タックンと映像に写るショージと忍は消えたほうが良いね」「会長はどうするの？ウチは戦争を選んだ。相手の使いを殺害したしな。わしも花を密葬したら地下に潜る」花の親父さんの車でタックン、鉄ちゃん、正吉は家に送って貰い。夜に荷物を持って正吉の病院で集合する事にした。「忍はどうするの？」「地雷にするよ」普通に正吉は答えた。

第八章　抗争　忍無残

小さな都市部で関西の組織と都市を中心にした組織の抗争が勃発した。関西の組織が人員約１万人。地方は半分以下の３千人。全国の

組織が関西の組織の勝ちと思っている。沖縄でも系列組織と沖縄の売春組織の抗争が勃発した。正吉がアリサから奪いヤムに預けた組織だ。アドバイザーにネズを付けている。ネズは次男ジョーの配下で在る。

武器はマックス大佐から買い付けていたが、抗争が始まり本国に帰ると言い出した。「マックス！散々、遊んで金を稼いで帰ると？」「組織の抗争に巻き込まれたくない。今ある武器は全て売る。」ネズはジョーに連絡を取りマックスを本国に返す事にした。夕暮れの基地の近くの荒屋で武器の取り引きだった。主だった幹部に取り引きを任せてネズは遠方から取り引きを見ていた。荒屋にジープが止まり中からはアメリカ軍ＭＰが自動小銃を手に荒屋に突入した。どうやらマックスが裏切ったようだ。ネズはカバンからパソコンを取り出し、マックスのペニスに付けたＧｐＳを操作した。基地から夕暮れの中を飛び立つオスプレイから反応がした。まだ起爆出来る距離。ネズがパソコンを操作した。オスプレイの貨物席に座っていたマックスは安心していた。いい加減に儲けたし、遊べた。これ以上は横流しが見つかれば軍法会議にかけられる。椅子に深く座り窓の外を見ていた。同僚がコークを渡す。栓を抜いた音と同時にマックスの股間が光り、椅子が有った所には穴が空いていた。シートベルトをしていたマックスの上半身を残し下半身は機体の穴と一緒に亡くなっていた。機体に穴の空いたオスプレイは基地に引き返した。幹部の半数が捕まったネズはジョーに連絡をした。「ネズ！今日の夜、正吉と正吉の仲間の鉄が操作するクルーザーを沖縄に廻す。武器と幹部だけ助け出す」「沖縄支部は？」「とりあえずは相手に渡す。関西の幹部を何とかしないと俺たちが危ない。ネズの頭が必要だから向う」一晩掛けて沖縄までクルーザーは走った。真夜中に沖合いでネズ、幹部とマックスから購入した武器を沖縄で積んで瀬戸内の孤島まで戻ってきた。「武器は？花の親に渡すんですか？」「嫌！地方都市で潰し合いしてもらうよ」「花の親父さんの組織も最終的にはね」「ネズには人間兵器で相手の幹部を消して欲しい。」

「おい！」島の奥からラテン系の男達が出てきた。「ウチの爺ちゃんの兵隊だよ。本部の有る関西の拠点を攻撃してもらう」武器の扱いは慣れている。コロンビアマフィアの兵隊が船に乗り島を離れる。「兄貴は？」「ジョーはアメリカだよ。アメリカ迄は追われないだろう。今夜中に粗方、型がつく。関西の本部と幹部の自宅を襲うから明日には手打ちを持ってくる。その後に、花の会長は始末しろ」「今、欲しいのはあの地域だけだ」島にあるコテージで兄弟の打ち合わせは朝方まで続いた。

早朝の住宅街、朝焼けに飛行機雲が住宅目掛けて2本、飛んでいく。「シュー」飛行機雲が要塞の様な建物に突っ込み爆発する。アメリカ製対戦車ロケットランチャー。赤外線スコープを見ながら人のいる部屋に打ち込む。「バシュ！バシュ！」続けざまに2本発射する。要塞のような本部事務所に張った防弾外壁もガラスも戦車を破壊する火器には無力だった。屋敷からは半裸の入れ墨の男達が全裸の女達と出てくる。要塞の近隣住民は家から出ない。「バリバリバリ」住宅街をロードバイクが要塞の入り口に向けて走って向かい入り口に止まると後部座席の男が半裸の男や女に向けて自動小銃を撃ちかける。２０人ほどの男女が倒れる。屋敷から高そうなシルクのガウンを着た老人が出てきた。ユックリと銃口を頭に向けて引き金を弾いた。「タウタウタウ」頭がトマトのように爆ぜる。直ぐにバイクは要塞の建物から離れる。関西の各幹部の住居で虐殺は行われた。同じ時間、正吉の地元のホテルでも花の親父、会長が撃たれて絶命した。

ラブホテル街の一室に忍がＳＭ拘束椅子に座らされて拷問さている。横には赤いドレスの胸のデカイ女が乳房を切り裂かれ倒れている。昨夜、繁華街のクラブ前で街に事務所を構えている関西の組織の幹部を暗殺した。胸に埋め込んだニードルガンで仕留めたがニードルガンの女は直ぐに捕まった。近くで見ていた忍の顔も出回っていたので拉致されラブホテルのＳＭ部屋に連れ込まれた。幹部はニードルガンの毒針で即死だった。ドレスの女は直ぐに裸にされて身体検

査をされた。金属探知機などなく３０センチの特殊な針を使いを全身を刺されて行く。「フグっ」針が乳房を刺し内部を探る。両乳房に異物の感覚が有る。ナイフを乳房に刺し上下に裂く。中からニードルガン本体が出て来る。両乳房を裂かれニードルガンが２個出て来る。ドレスの女は水商売で借金を作り忍の金融から借りた。年は２５歳。長い髪にタレた眼。厚い唇にＦカップは有る巨乳。まだ、一歳の子供がいる。乳房に針が刺さるたびに乳首から母乳が飛ぶ。胸の次は尻を針が刺す。尻からはなにも出ない。最後に股間に針を刺す。３０センチでは無く5センチの針を刺して行く。女は胸を裂かれた場所から垂れる血で顔は青くなっている。女が針を刺されるのを見ている裸で拘束されている忍の膣からはヌラヌラと液がたれて椅子から床に垂れている。針をクリトリスに刺して、すぐ横の包皮に刺した。異物の感覚が有った?と思ったと同時に女の股間が破裂した。検査をしていた男の手首より先が消えていた。女は股間の大きくなった穴からけむりをあげてこと切れている。無事なのは茶髪の花を拉致した男だけで有る。手首が無くなった男は床で転げまわる。「こんなキチガイ相手にできるか！」「パンパンパン」忍に向けて拳銃を発射した。忍は全裸で拘束されたまま頭、胸、腹を撃たれて絶命した。手首を抑えてハンカチで巻き茶髪は手首を無くした男を肩に担ぎ部屋を出た。ラブホテルの入り口から出てすぐに黒色のワゴンに押し込められる。「こんなんかぁ！」赤ら顔の中年が拳銃を茶髪に押しつけて睨んでいる。「おい！例のアジトに連れていけ」ワゴンはラブホテル街を疾走して海辺の別荘に止まった。大きな水槽に魚が数匹、およいでいる。「お前ら！皆殺しじゃ！」茶髪は叫んでいる。「おう！」テレビに炎上する建物が写る。中堅幹部の若い茶髪にも建物は見た事が有る。関西に有る本部の建物。死亡者欄に会長と幹部の名前がうつる。「お前ん会長、潰したわ。田舎組織と甘うみたの?」次々に組織の幹部の襲撃事件が映る。幹部、２０人中、１４名即死。全国規模の組織も弱体化して各地の組織から襲撃を受けている。お前らんとこの頭の娘も東京から拐ったわ。

髪のストレートな清楚な女子大生が連れてこられる。「田崎！」お嬢様が縛られた茶髪の男の名前を呼ぶ。「ウチの花にした事をこの娘にもしたるわ！その後にお前じゃ」「コイツ、瞳の妹じゃな！姉と同じ方法でいくんじゃ」ストレートな髪をバリカンで会長のが刈り上げて行く。真っ白な坊主頭とメイクした顔がみょうに色気がある。ブラウスを引きちぎり、上下、白のパンティとブラを外す。小ぶりな胸と薄い陰毛の股間が露わになる。お嬢様学校に通っていて瞳とは母親が違う。職業も隠して東京の全寮制の学校に入れていた。田崎の前に清楚なお嬢様が頭を坊主に刈られて全裸で立っている。ミスキャンパスにも選ばれたとオヤジが喜んでいた。その令嬢が今から殺人魚の餌食になる。透明なプールの横でオロオロしている所を花の親父が蹴り落とす。ウニョウニョと泳いでいた改良カンディルはザッと隅により、女性の下半身から発する体液に反応して一斉に襲い掛かる。「ああ！いやん、お尻に来る。前の穴にも来る」一匹のカンディルが指の間から尻の穴に潜る。「フグッ」潜ってすぐに直腸壁に噛み付く。暴れて水面を叩く。「ガィアアア！」前の膣口にも入り込み処女膜を破り子宮口に噛み付く。足に力が入らず水に顔を着ける。口にも潜ってくる。水の中に赤い鮮血が漂う。うつ伏せで動かなくなった。股間からは銀のムチが何本もウネッている。引き上げると眼、口からも銀色の魚体をうねらせて絶命していた。田崎は花の親父を睨んでいたが先に花をバラバラにしたのは田崎である。坊主の元令嬢の身体を裂き、体内のカンディルを取り出す。「次はお前らジャの、おう裸にせえ」会長の子分が田崎、手首のない部下を裸にしてプールに入れる。「なんじゃい！魚か？いっぺんに殺れや！」最後の文句である。体長５０センチの魚かプールに入れられた。二人の廻りをグルグルと廻る。「ハガァァァ」手首のない部下が叫ぶ。見るとペニスの下、睾丸が無い。「コロソマって言う金たまを食う魚じゃ。お前らの映像は世界中に流したるけ」田崎の睾丸にも噛み付く。普段は木の実を食べる間違って人間の睾丸にも噛み付く。睾丸を食べられ悶絶している所にピラニアを投入

する。真っ赤な水面をバシャバシャとピラニアが動き水面は静かになった。「お前ら！今日で組織は解散だ。後は花の幼馴染の正吉に任す。嫌な奴は足を洗え。わしは警察に出頭する」会長が正吉に電話で組織のことを任しその場で警察を呼んだ。警察が別荘に着くと裸で魚に齧られた遺体と穴だらけの女の遺体が有った。警察で海外の傭兵を頼み敵対する組織を壊滅を頼んだと答えた。大量殺人の罪で会長の死刑は決まった。高校生の正吉に組織の管理は無理なので次男のジョージに任せた。花は無くしたが都市の組織と沖縄の組織が手に入った。又、関西の組織を潰した事で組織と同盟する大組織も出てきた。

第九章　最大の相続争い

高校を卒業した正吉は東京の医大に進学した。鉄ちゃんは高卒後に警察大学校に進学。タックンは大学の法律学部に進み子供の頃の街を自分達の物にすると言う野望を進めていた。夢は花も言っていたので幼馴染の夢を実現中だった。街の裏社会は実質、正吉の兄が支配していた。コロンビアからの武器、薬品を海で受け取り日本中に流していた。正吉の学生生活は退屈を極めた。来年には二十歳になる。罪に問われると死刑も有り得る。性交渉相手もいる。好きなSMプレイも金で集まる。薬で痛みを感じない相手に何をしても面白くは無い。乳首を切り取っても、膣にタバコを押し込んでも、ヨダレをたらし嘲笑っている。花が惨殺された映像が頭から離れない。苦悶の中、泣きながら解体される裸体。花の初めての男は正吉だった。頭では腹が立ちながら勃起していた。自分は本当の変態と自覚した。「ピロピロピロピロ」カバンのスマホが鳴り出した。教室から廊下にでる。電話の主は次男のジョージからだった。ジョージの母親の父、ジョージの祖父が無くなり葬儀に呼ばれた。コロンビアマフィアのドンであるジョージの祖父。前回の抗争で助けて貰った。「兄貴！分かったよ。東京からコロンビアに向う。兄貴は？コロンビア？空港に着いたら電話をするよ」アパートに帰り少しの荷物と

プラスチックナイフをカバンに入れて空港に向かった。特殊なプラスチックなので保安検査は通る。翌朝にコロンビアの空港に着き、ジョージに電話をした。「今から従兄弟のジャニスを向かわせる。金髪の美人だ。日本語も出来る」空港ロビーに腰を降ろしてカバンのプラスチックナイフを取り出し腹に隠す。後は鉄ちゃん直伝の空手で乗切ればと気長に金髪美人を待った。２０分程で金髪をなびかせて胸に小型スイカを入れたようなホットパンツの如何にも南米系の美人が正吉に近づいて来た。「アナタショウキサン？」日本語が出来ると聴いていたがカタコト過ぎる。「貴方がジャニス？」流暢な英語で返事をする。「英語が得意なのね」ジャニスも英語で返答する。「ジョージとは従兄弟？」「そうよ。ジョージの姉の子供なの」「ジョージは？」「教会にいるわ。今から送るから、車に乗って」案内されたセダンに乗り込む。スモークを張っているが他に人はいない。日本人だから銃でイケると思っているんだろう。空港を出て市街を抜けると砂漠に伸びたハイウェイにでた。道路横には野生のサボテンが群生し赤土の山が連なる。ジャニスのスマホが鳴り出す。胸に入れたスマホを取り出し話し出した。「拉致？殺せ」少しは兄貴の普段に喋るコロンビア語で意味は解る。何かをしてくるだろう。サボテンの切れ間から道路を右折し砂漠に出た。砂漠で降ろされた。すぐに腰から銃を取り出し突きつけた。リボルバー式だったので銃鉄に指を入れて、腹のナイフをジャニスの喉に突きつけて銃を奪った。余りの速さにビックリしている。「ジョークよ」ポケットから結束バンドを取り出し後ろ手に廻して親指同士を結束バンドで締めた。直ぐにホットパンツとパンティをずりおろした。「やりたければ良いわ。その代わり助けて」正吉はカバンからジュラルミンケースを取り出した。中にはマイクロチップ兼爆弾が入っている。「ノウウゥ」コロンビアマフィアの世界でもプッシーボムで認知されている。指でジャニスのクリトリスを弾く。泣いて首を振るがある程度クリトリスが膨れた所で根本に針を撃ちマイクロチップを埋め込んだ。「ジャニス！わかるよな？俺の心音が止まると爆

発。俺が記号を言うと爆発。誰に頼まれた？」「教会で言うわ」ナイフをカバンに入れて腰に銃を差し込み、ジャニスの身体検査をした。銃以外は持っていない。車に戻り、運転席に座らせ教会に向かわせた。暫く高速道路を走り森の中に教会が見えたインターで車は高速道路を降りた。教会の駐車場には沢山の外車が止まり、横には自動小銃を持った黒服の外人が睨みを効かせている。ジャニスは直ぐに車を降りて教会に入りビア樽のような中年女性に哀願している。正吉は数人の黒服に銃を突き付けられた。「ヤメテー撃ち殺したら私も死ぬのよ！」騒ぎを聞いてジョージが正吉に近付く。「何の騒ぎだ？正吉」「アニキ！この国は銃口を向けられたら相手を殺していいんだろ？」ジャニスに銃を向けられた事、ジャニスのクリトリスにマイクロチップを埋めた事を日本語でジョージに話す。ジョージがビア樽の中年女性に現地語で話す。気不味そうにジョージに話をしている。「正吉！奥の部屋に来てくれ」教会奥の部屋にジョージと正吉が入った。「大変なことに成ってる」ジョーは日本語で喋りだす。聞かれたら不味い話か？正吉は又、ややこしい事に巻き込まれたと少し半笑いでジョージの話を聞いた。「じゃあ、マフィアの爺さんの跡目争いにジョージもアマンダおばさんも巻き込まれたってことか？」爺さんには４人、子供がいて長男と長女が手を組み、次男、次女のアマンダ叔母さんが手を組んでいる？ってことか？」「あの銃を突き付けたのが長女の娘！」「兄貴！今なら樽諸共、殺れるけど？」「駄目だ。爺さんの葬儀だ。俺たちが一族から恨まれる。」「爺さんの葬儀の日に義理の従兄弟を殺そうとしたんだぜ」「葬儀が終われば抗争になる」「母さんが助けてくれって」「兄貴、叔父さんの兵隊と武器は？」「半々だな。でも、お前がジャニスにプッシーボムを仕込んだから樽の叔母さんは動かない。長男の叔父さんだけだな。」「下の叔父さんの兵隊だけでは無理」「援軍にメキシコマフィアを呼んだよ」「メキシコに乗っ取られない？」「其処まで考えが付く人なら爺さんも跡目を任せてるよ」「爺さんの本命は下の叔父さん？」「兄貴！アマンダ叔母さんには可愛がられた

し、ジャニスに殺されかけたから兄貴に乗るよ」カバンから衛星電話を取り出して、東京のタックンに電話をした。「正吉！タックンと鉄ちゃんは相手にバレているぞ！」「あ！タックン？渋谷にゴジラってクラブが有るから夜に行って正吉がドラッグ１０００とボムを２００。翌朝に般若の刺繍した革ジャンが行くから渡してと伝えて」「正吉君、僕達が行こうか？」「駄目だよ。タックン、国家試験だし、鉄ちゃん警察だもん。」「また、電話するね」翌朝、般若の刺繍を胸に入れたライダースジャケットの女がゴジラを訪ねて荷物を受け取り高速をバイクで走らせ駐車場に入りバイクを止めた。後から黒色のランクルが横に止まる。中からはスーツ姿の女が５人、降りてきた。全て黒色のスーツにパンツ。髪型はショートボブスタイル。体型もスタイルも全て同じ。ライダースジャケットの女が５人にドラッグの入ったカバンとボム、マイクロチップ爆弾のケースを渡した。５人は各自のスーツケースに入れて鍵をかけた。ライダースジャケットの女はスーツを脱ぎラフなＴシャツにジーンズと言うラフな恰好で空港に向かった。ライダースジャケットの女だけ肩まで髪を伸ばし栗色に染めている。細長い眉に彫りの深い顔立ち。外国人の血が入っている。大きな胸を揺らしながら出国ロビーに向う。後ろからスーツ姿の女が着いていく。「コロンビアの国際空港まで」パスポートにはマリアサイトウと書かれている。職業はジャーナリスト。黒色のスーツ姿の女は全員がナース。コロンビア行きの航空機に乗り、夕方には飛び立った。「正吉。マリア！今コロンビアについたわ。」「マリア！今から地図を送るから其処まで皆を連れて来てくれ」マリアは空港でレンタカーを借りた。ハマーと言う軍用ジープ。全員を乗せて地図の場所に向かった。「正吉！今、町外れの駐車場だけど何処に行けば良い？」「マリア！メールで敵対組織の幹部の娘の写真を送るからプッシーボムを仕込んでいってくれ。明日に又、連絡する」ハマーは大型なので街のレンタカー屋に行き、マリアはバイクを購入し、他の黒色のスーツ姿の女達は一台ずつ車を借りてレンタカー屋で別れた。マリアのスマホには敵対

する長男組織のナンバー2のゴメスの娘、マリが写っている。現在、大学の一年生。町外れのバーガーショップでアルバイト中だ。マリアがバイクをハンバーガーショップから外れた所に停めて店に入る。カタコトの英語でマリに話しかける。マリは観光客と思っている。店には組織の人間のような男も座ってマリを見張っている。マリは身体は大人だか顔は外国人にしては幼い。オーダーをしてマリアが女子トイレに入る。バッグから銀色のジュラルミンケースを出しポケットに入れる。「ドガン」トイレの貯水タンク横の配管を蹴り壊すと「ノー！水が止まらない」大げさに叫ぶ。アルバイトの女の子はマリだけだ。「大丈夫ですか？」心配そうに入って来たマリの鳩尾を殴り気絶させて、パンティをずらしてクリトリス横にマイクロチップを埋め込む。外国人のビラビラは日本人よりも大きく分厚いため作業はしやすい。「何だ？どうした？」店主とボディガードが入って来た。「トイレの事を話、マリが水で滑ったと話す」「済まないが工事を呼ぶので今日は閉店にする。すまんが帰ってくれ」店主に言われマリアが店から出ようとすると「あんた？日本人か？」ガードが声をかけてきた。「ノウ！チャイニーズとチリのハーフよ」彫りの深い顔立ちでガードは信じた。店から出るとスマホが鳴り出した。「どうしたの？イ？え？ニ、が捕まったの？」黒色のスーツ姿のナース達は全てがイロハで呼び合っている？本名の場合、友人、親族を襲われる事が多い。「誰に付いた子？長女のベスの娘？」ジャニスの妹のジェス。ジャニスよりも大柄で男なら跡目争いに加わっていた。樽叔母さんより、残酷で有名な娘だ。「イ！ニが連れ込まれた場所は解る？」「マリア！建物に入って切れたわ」「今から行くわ。スマホに転送して」「正吉！ニが捕まったわ。正吉の名前まで出ないけど」

第十章　転落ナース無残

コンクリート造りの地下室にニこと、ユメカは裸で吊るされていた。両手両足の手首、足首からチェーンで部屋の四隅に固定されている。

乳房は根元で縛られた状態でチェーンに縛られている。股間はツルツルに剃られて剥き出しのビラビラとクリトリスをクリップで引っ張られている。頭はツルツルに剃り上げている。変装用にウィッグが被り易いようにしている。「何人だ？チャイニーズか？ジャパンか？」ユメカは答えない。「先ず危険なその胸から処分だな」ユメカは捕まる時に相手に抱きつき一人に胸のニードルガンで始末した。だが、2発目にジェスに胸を潰され、中のニードルガンも壊された。そのまま拉致され地下室に連れてこられた。ユメカは3年前まで大学病院のナースとして働いていたが、付き合っていた男の為に病院の薬剤室から医療麻薬を盗み横流しした。昔の同僚に誘われ正吉の病院のナースに成り、特殊な暗殺専門ナースになった。警察に捕まらなかったのも特殊ナースになったからだ。胸にニードルガンを埋め込み、女の武器は改良した。何人かはニードルガンとセックス中に暗殺した。初めての敵に捕まり拷問さている。「物騒な胸から取らないとね」スペイン語でジェスが部下かナタのような南米特有のナイフを受け取る。「嗚呼！あぁ」釣り鐘状の乳房の付け根にナイフを這わせる。ハムをスライスするようにナイフを挽いた。「ハグゥゥゥ」下乳から上にナイフを上げて行く。赤い血が線になり大きな口の様な切り口が見えて拡がっていく。「ベチャ」右の乳房が床に置かれたトレーに落ちる。切り口からは白いシリコンも見える。ニードルガンを仕込むにはある程度の乳房の大きさが必要な為に豊胸手術をしているナースもいる。銀色のトレーに落ちた乳房の断面からは銀のニードルガンと半透明なシリコンが見えた。切り口に外国製のアイロンを当て焼いて止血する。肉の焼ける匂いが地下室に充満する。ユメカは気絶していた。口に薬を混ぜたハンカチを当て強引に起こす。「はぁはぁはぁはぁ」息もやっとしている感じだ。、左のジェスに握りつぶされた乳房も切りとさる。握りつぶされて右よりも感覚は無い。ジェスが部下に乳房を運ばせた。地下室の扉が空き、爆弾処理班のような防護服の男が二人、入って来た。入れ替わりにジェスが部屋からでる。三脚にカメラを付けてユメカを撮影

する。スプーン状の熊手のようなフォークを膣口から子宮まで押し込む。指を入れてフォークの先を膣壁に突き刺さす。ユメカの反応はビクンとしただけだ。膣壁に突き刺したフォークを一気に引き抜く。膣壁に有るかも知れないマイクロチップの検索をしている。上下左右の膣壁を裂いて膣壁の検査が終わる。男が二人でユメカの膣口に指を掛けて二人がかりで左右に裂いた。「イギーイイイィ」流石に膣を裂かれたらユメカも悲鳴を上げた。一人の男が膣に腕を入れて指先を子宮口に押し込んだ。「フォ」指を入れた男が引っ張ると、膣口からピンクの肉の塊と塊から伸びた黄色い玉状の物が出てきた。生きたまま、ユメカは子宮を南米の外気に晒した。流石に白い目を剥いてこと切れている。ハサミで肉のビラビラとクリトリスを切断した途端にユメカの股間が爆発をして地下室に内蔵をぶちまけた。防護服を着ていないと男も吹き飛ぶ威力が有る。両腕を部屋の隅に繋がれ上半身だけのユメカが揺れながら内蔵から血と腸を揺らしながらぶら下がっていた。ジェスは母親の樽の体型のベスにユメカが爆発するさまをパソコンのから映像で送った。「相手にも送る？」「止めなさい！ジャニスも殺されたらどうするの！」「じゃあ下の叔父さんにつくの？」「とりあえずはつくわ。メキシコマフィアが来たら形勢逆転よ。」

国際空港に大柄な腕にタトゥーを入れた黒人や白人が数名、ゲートから出てきた。直ぐに空港前の道に停めているワゴン2台に乗り込み走り去った。

「グァァァァァァ」モニターには拷問され股間が爆発する、ユメカことニの処刑が映し出される。正吉、ジョー、アリサは顔色を変えずに見ている。「で、埋め込んだ幹部の娘の親に埋め込む動画と一緒に送ったんだ」「そう。みんな、コチラに流れてきたよ。ジェスも馬鹿だね。お礼にマリア、ジェニスに埋め込んだマイクロチップに電流流して上げて」「はい」マリアがリモコンのボタンを押した。「アア…イャー！ノウ」暗い顔をしてソファーに座っていたジェニスが股間を抑えて悶絶する。「どうしたの？ジェニス？」5

分後、電流が止まった。「大丈夫なの？」「やはり嫌がらせしてきた」ジェスが呟いた。「アナタ
！何したの！」「一人。相手の仲間を捕まえたから拷問して殺した。その動画を送ったよ。マム。見る」樽の身体をフウフウ言わせ拷問され性器を潰され絶命するユメカを観て興奮している。そして泣きながらジェスに命令する「どうすればジェニスは助けられるのよ！」「暫くはジョージの下に付くしか無いわね。向こうの部下を殺したことはアタシが謝るわ」ドアがノックされ長男のジェームズがメキシコマフィアを連れて部屋に入って来た。「ジョージの弟の正吉を狙撃すれば終わるんじゃ無いのか？」「あの子の心臓が止まればプッシーボムは全てが爆発。狙撃も出来ない」「ボムを取り出す手立ては？」「不適合金属がボムに触れたら起爆」「不適合金属？」「専門のメス、ピンセット、鉗子等の手術用具が必要なのとジャマー、適応妨害電波が必要。」「コロンビアマフィアの使っている機械は？」「アレはコロンビア専門」「両方で潰し合いさせて奪うのは？」「コロンビアのドンはうちのボスの従兄弟。無理は出来ない。組織が無くなれば別だが。」「どうでも良いが飯と女！」車はコロンビアマフィアの本拠地の隣街を本部に決めて高速を降りた。「痛い！アタシはチャイニーズ！」街のバーの中でアジア系の女性がマフィアに拉致され乳房を３０センチの針で貫かれる事が頻繁に起きた。長男のジャックの幹部が数人、ニードルガンで胸に毒針を撃たれ殺られた。防弾チョッキを着ていても乳房を下から持ち上げ顔に向けて撃たれて絶命したものもいる。他は娘や愛人がプッシーボムを埋められ次男の組織に移った。勢力は7対3に変わった。「アマンダ！もうすぐ組織は俺たちのモノだ！」嬉々としてジェームズはアマンダの元に来た。「兄さん！出歩いて大丈夫なの？」「大丈夫だよ。組織は私のモノだ！君の義理の甥の正吉は凄いな！」ジェームズはご機嫌にバーボンやウォッカを飲み上機嫌だ。夜も更けて来た。「マリア！叔父さんのボディガードをしてくれ」正吉はマリアを呼んだ。黒のドレスに身を包みマリアが部屋に入ってくる。髪は金髪に

染めている。目はカラーコンタクトでグリーンに変えている。見た感じは現地の美人にしか見えない。「ジェームズ叔父さん、敵はどんな手に出るか分からない。マリアを付けるよ。」「マリア！頼むよ。」ニコリと笑いジェームズのウデを掴んだ。上機嫌でマリアの腰に手を廻し部屋から出ていく。アマンダも上機嫌だ。もうすぐ組織は自分達の物なる。それは国を治めることと等しい。白いキャデラックの後部座席に乗り込んだジェームズとマリア。前方運転席との境のガラスを境をスモークに変色させてマリアの分厚い唇にキスをしながら胸に手を滑り込ませる。ハーフのマリアは白人特有の肌のザラつきや体臭が少なく欧米系に好かれる。「はふ！ペチュ」ジェームズは無我夢中にマリアの唇を吸い胸を揉んだ。胸から手をスカートのスリットに滑り込ませる。股間は熱く、ヌラヌラと湿りジェームズの指先を締めてくる。高速を降りジェームズの屋敷に車が着いた。キャデラックを降りたジェームズの股間はいきりたっていた。右にマリア、左に部下が肩に手を添う。千鳥足で屋敷内のエレベーターに乗り込み、寝室に向かいエレベーターは上がって行った。

第十一章　死の近親相姦

広い寝室の一角に猛獣用のゲージが置かれ中には少女が二人、抱き合って寝ている。薄い陰毛から幼さが解る。売られたのか誘拐されたのか、どちらにせよジェームズの性の相手だろう。

「コイツは昔と変わらない」マリアは侮蔑の眼差しでベッドに横たわるジェームズを見た。少女の事を言うと3人でとか言い出しかねない。見てみぬふりをして、マリアは黒色のドレスを脱ぎ捨て下着姿でジェームズの横に寝た。マリアが切れ長の眼でジェームズを見つめ唇を近づける。マリアのキスは特殊な機関で修練済みなので殆どの男はキスだけで虜になる。「ヌチュヌチャ」わざと音をたてながらキスをしながら右手でジェームズのペニスをシゴイた。ベッド隅のゲージに掛けたカーテンが揺れた。中の少女が見ているのだろう。唇から顔を放し股間に顔を埋め直しジェームズのペニスをふく

む。一段と膨らんだ感じが口の中でする。マリアの頭を持ち手で自分の股間にマリアの頭を押さえ込んだ。「ガァ」小さな呻きをマリアは、たてたがペニスは根元までマリアの口に入った。特殊機関での訓練が無ければ吐いている。マリアの髪を鷲掴みにして頭を上下させる。流石のマリアもこれ以上は喉は持たない。股間から頭を上げてジェームズの下半身に跨り、濡れてヌラヌラと愛液を垂らす自分の熟れた肉のヒダに押し付けて体重をかけて座った。ペニスはズッポリとジェームズの体内に収まる。マリアが口元を噛みしめた。膣壁に埋めた特殊バイブが動き出す。人肌の感触に人工のペニスを包んだり揉んだりする感触に普通の男達は耐えられない。「オゥオゥオゥ」もうスグ、果てる。こんな父親のザーメンを受けるのは屈辱的であった。奥歯を強く噛みしめた。マリアの膣壁に埋めた特殊バイブから極小の針が伸びて行く。膣内の肉を刺しながら膣に包んだペニス目掛けて伸びて行く。毒を出しながら針は進むのでマリアの膣壁にも激痛は走る。「アゥ」ジェームズは首を掻きむしり苦しむ。マリアは直ぐにドアを叩き部下を呼んだ。黒服の男たちが銃を手に部屋に入って来る。直ぐに救急車が呼ばれ運ばれた。男の一人がマリアにベッドに寝ろと命令する。男の指がマリアの膣を掻きまわす。幾ら膣壁を探しても自動で膣壁深くに潜る。「はい」廊下の部下がマリアを調べていた男を呼び「心臓発作だ」と伝えた。「すまなかった！屋敷に帰ってお前のボスに伝えてくれ」マリアは下着を着けずにドレスを羽織り部屋を出た。部屋の隅のゲージの中の少女に目もくれず、部屋を出た。マリアはジェームズの妾の子供で有る。幼き頃からジェームズの慰み物に成っていた。ある日、酔ったジェームズが日本の組織に貰った日本刀でマリアをきりつけようとした。マリアを庇い母親はジェームズに切り殺された。部屋を逃げ出し昔、母親から渡されたペンダント裏の電話番号に電話をした。母親の祖父が渡していたものだった。泣きながら拙いスペイン語で喋ったが直ぐに祖父の部下のアジア人が迎えに来た。マリアは祖父の屋敷に逃げた。屋敷で色々な食事を与えられ祖父から質問を受け

た。「マリアはどう生きる?母の仇を討つか?普通に暮らすか?」

「母の仇を討つ!」マリアは即答した。毎日、ジェームズのペニスを舐めさせられ、狭い穴に無理矢理に押し込まれた。普通の生活には戻れないし男を愛する事は無理だと思ってた。「明日からアサシンとして育てる」「ミス・リア!教育係を頼む。死んだらそれ迄の子だ」翌日からアリサのアサシンとしての修行が始まった。語学、薬学、医学、武術、性技術。朝から夜まで続き、夜は全身のエステと名器修行で毎夜、特殊なバイブを入れて眠る。屋敷で10年の歳月が流れた。何時もの武術訓練後に祖父に呼ばれアリサは祖父の部屋に行った。ソファに腰掛けて祖父と話している青年がいた。整えた髪、切れ長な目、何処か母親に似た横顔。眼鏡を掛けているが目が不気味に暗い。人を殺めた経験者の目。「マリア!お前の従兄弟だよ。日本の正吉だ。日本に組織の支部を作るんだと」不思議とマリアと正吉は気が有った。マリアが海外傭兵部隊から帰還した時に祖父から呼ばれた。「マリア!正吉がお前を雇いたいと組織に正式に依頼が有った。ただ一つ、お前の性器を改造したいと、どうする?」マリアは正吉に就いた。屋敷を降りて車のドアを開けてカバンから簡易ビデを取り出し膣に機械を入れて洗浄した。毒が膣壁にピリピリと不快にさせる。あの男の体液も消し去りたい。車に乗り込み正吉に終わった事を伝えた。

第十二　マフィア解体

「本当か?ジェームズが心臓発作で死んだ!」電話を切り頭の上で十字を切り長男ジジは喜んだ。「サリ!祝盃だ」金髪ショートカットの女が薄いネグリジェ姿でジョージに寄る。「何か良いことが有ったの?」「ああ!弟が心臓発作でいった。これで組織は俺のモノだ」薄いネグリジェからは上を向いた乳首が透けて見える。ジジの薄い胸毛を触りながら股間のペニスをしごく。「ハゥ!」サリの細い腕が筋肉を浮き出したと同時に腕がブルンと揺れた。ジジの胸から突き出た腹も一瞬、ブルンと揺れる。股間のペニスが萎み、また膨らんでいく。「ハゥ!頭が痛い!」急いでサリが部下を呼んだ。

ジジはフラフラと部下に運ばれ部屋から出た。数分後に救急車が来たが気絶している。救急隊員は「頭の疾患かも知れない」と救急車に乗せて出ていった。「あたしは帰るわね。お代は良いわ。ボスに宜しく」サリは屋敷から出ていった。「マリア？終わったわ。多分、脳溢血。良くて半身不随か逝くわ」サリは祖父から派遣された組織の殺し屋。銃、刃物、毒は使わずに発勁と言う振動を心臓に当てて血圧を自由自在に操作する。ジョージのような中年期男性なら心臓、脳、何処かに疾患が隠れている。下も薬だよりでバイアグラを飲んでいた。サリが血圧を操作すると血管破裂、梗塞、自由自在に起こす事が出来る。サリはそのまま空港からアジア某国に帰国した。「何ですって！」「ママ！どうしたの」「ジジが脳溢血で亡くなったって」組織を束ねた大ボスが無くなり一週間で跡目のふたりが無くなり、次女と長女が跡目争いになった。「ジェス！貴方が組織を束ねなさい！ジェニスはもういいわ。アマンダとジョージを消しなさい」「イエス！マム」アマンダの組織とジェスのジェームズ派への攻撃が始まった。地下室に幽閉されたジェニスの股間が発光してジェニスの腰から下が消えた。アマンダは下部組織に連絡をして娘を犠牲にせよと伝えた。マリの股間も発光して吹き飛んだ。各組織の幹部の娘、愛人が吹き飛んだ。アマンダは慌ててベスに手打ちを持ち掛けた。アマンダの要求は正吉を差し出し、黒色のナースを指す出すこと。それだけだった。直ぐにアマンダは要求を飲み正吉を探すように部下に伝えた。直ぐにベスに会う為に屋敷を出て車に乗る時、アマンダの頭はトマトが弾けたように吹き飛んだ。ベスの部下の組織の仕業だった。もう、全面戦争しかなかった。ベスはジェニスに正吉の拉致と敵対勢力の掃討を命じた。アマンダの息子ジョージもジェニスの抹殺を正吉に命じた。その夜、ジョーが就寝中に初達はジョーを拉致しジェスに連絡を入れた。「ジェス！正吉だ。俺はコロンビアに魅力は感じない。アマンダにもジョーにも恩は無い。勿論、ベスにもだ。ジェニスの起爆ボタンを押したのもジョージだ。今からジョージをそちらに渡す。どうだ？嫌なら死にたくは無いか

ら本国、アジアから兵隊と暗殺部隊をコロンビアに送る。どうする？」ジェスは考えて、ニのような人間爆弾と兵隊との増員はジェスにとっても得はしないと思い応じた。「正吉！お前のペニスにもマイクロチップが有るのを忘れるな。ハウス！」「ハウス！ハウス？」正吉の股間は何も起こらない。「ネズ！」小さな男が暗がりから出て来た。日本に居るはずのネズがコロンビアに来ている。手にはマイクロチップに偽電波を送るジャマー。「ジョージ兄さん。いくら部下でも彼女をレイプしたら駄目だよ。」ジョージはジェスに連れて行かれた。裸に剝かれたジョージの前にはジェスが枝切りハサミをジョージのペニスをはさみ「お前は自分のペニスで窒息死するのよ」枝切りハサミの柄に力を入れる瞬間にジェスの股間、クリトリスがスパークした。ジェスの腕からハサミが落ちた。「正吉かい！」ジェスが振り向くと白人と黒人が裸のベスに首輪をして銃を手に持ち地下室に入って来た。「あんた達誰だよ」「今から死ぬんだから知らなくても大丈夫だよ。」「何でアタシの股間にマイクロチップが入ってんだよ」「アンタ、マッサージで寝たら駄目だよ」先ずはオバサンから、ショットガンをダルダルの膣口に押し込み引き金を引いた。「バン」弾けた腹から大量の内臓が飛び出す。「ママ！」「ソレを押したらアタシも死ぬんだろ！早く殺れよ」「殺しはしない。ウチ専属の女優になるんだよ。お前の好きなＳＭ女優にな。」ジェスがパンティを脱ぎ捨てて自分のクリトリスを摘み力を入れようとした。「ガァー」右の乳首に電流が走る。「ジェス！お前のマイクロチップは爆発はしない。後、身体中に埋め込んでいるよ。だから、クリトリスを引き抜いても無駄だよ」防犯用ネットをジェスに掛けて電流を流すとジェスは気を失った。「あ！お前はつかいようが無いわ。キング」「ドン」ジョーの下半身が吹き飛びその場に崩れ落ちた。

抗争から一月後、白亜の屋敷に褐色の裸体に首輪を付けた女が割腹の良い白髪の老人に庭をひきずられ四足で歩いている。褐色の目鼻立ちがハッキリした南米の美人だ。唇に赤いルージュをしている。

少し人と違うのは四肢の肘、膝から先が無い。ドンが説明する。「ウチに来た時は酷かったんだぜ。世話をする部下を5人、見張りが3人、素手で締め殺した。物騒だから切り落としたよ。アレでも獣姦ファンがいるからその業界ではスター女優だよ」南米マフィア内では相手組織の妻女、愛人、ボスの娘をいたぶりペットとするのが流行っている。コロンビアマフィア最大勢力の伝説のボスの孫をペットにしているだけでステイタスになる。鍛え上げられた筋肉は落ち女の丸みを帯びた身体になっていた。「次の撮影会は南米の名馬との種付けさ。売れるぞ」ボスは嬉しそうに笑った。

「南米人はドギツい映像が好きだな?今度は競走馬に種付けだって」自宅のソファでタックン、鉄ちゃんが一緒に座って映像を見ていた。大学ももうすぐ卒業。タックンは司法試験を受かり検事になる予定。鉄ちゃんは警察官、上級試験に受かったから幹部からのスタートだ。正吉くんは後は研修医として東京に有る病院勤務だ。「どうする?暇だね」「女を呼んでセックスも飽きたし。痛ぶるのも、最近はMばかりだしね」「初物刈りする?」「イイね。最近はしてないから。」「後輩の医大生を使っていかにも処女を探すよ」

第十三章　百地一族との抗争

「コッチコッチ!小百合!ココよ」小百合は純白のブラウスにベージュの帽子、日傘をさして正吉の屋敷に入る。小百合は関東の全寮制女学院の生徒。校則もキツく今回も塾の合宿で正吉宅に来た。小百合を筆頭に麗華、美月、全員が医大志望で全寮制女学院の生徒。「皆んな、学生だけどかるいカクテルならイケるよね」正吉宅にはクラブフロアも有る。「これから面白い映像を見せるよ」カラオケステージが反転し巨大液晶モニターが出てくる。「えーエッチな奴ですか?」「まあ、見てなよ。世間に出廻ってないから」モリターが明るくなり切れ長の眼に彫りの深い目鼻立ちに青い眼のブロンズ像のような美男子が金髪の女性にディープキスをする。男の股間にカメラが向くとギンギンにイキりたっている。「コレって洋物の裏

影像?」美月と麗華が小声で喋る。「ヌチャ!ネチャ」ディープキスを音を起てて唇を合わす。イキりたったペニスを金髪の唇に近付ける。真っ赤なルージュを塗った唇から長い舌がペニスを舐め回す。美月、麗華、小百合は普通の外国人のセックスでも興奮してきた。カメラが全体を映す。四つん這いに見えた金髪の女性には肘、膝から先が馬の脚を模したスチール製の義足が付いている。よく見ると首には赤い首輪。腹の下には人体に合わせたスチールの台。「ブルルルル…ヒヒーン」真っ黒な黒鹿毛の馬がカメラに写る。真っ青な空の下。奥には白亜の屋敷。庭にはテーブルと数人の男女が優雅にワインを飲みながらフェラチオを見ている。其処に真っ黒な馬の登場で男女は拍手をしだした。「南米のグレードレース優勝のご褒美だよ」廻りの仲間にトロフィーを見せる。黒鹿毛の馬のペニスは太さがコーラボトルサイズ、長さは1．5メートルは有る。ソレを黒人のメイドが3人掛かりで勃起させている。一人がオイルでペニスをシゴキ、一人は尿道を舐める。馬の鼻面に廻ったメイドは股間に手を当て自慰に浸る。メスの匂いで馬は発情している。棍棒のようなペニスからはタラタラと液が垂れてる。女の褐色の尻に注射器が打たれる。「ハァアゥン」窄んでいたアナルは拡がり、アナル下の膣口から小陰唇は力を無くしダランと垂れてくる。メイドが小陰唇に指を掛けて左右に拡げる。其処に棍棒のペニスがあてが割れて、馬の尻を押すとズブズブと膣口に入っていく。尾てい骨は盛り上がり、下腹は下に押し下がる。馬が腰を振り始める。「オエ!グェ」赤い唇から黄色い胃液が吐かれる。子宮を押し上げられ、小腸、大腸、胃と子宮から押される。「グェグェ」クリクリした眼から涙と口から胃液、鼻水を垂らしながら眼は虚ろに空を見ている。「コレってCGかなんかでしょ!あんな大きな物が女の人に入らないよ!」美月と麗華が喋っている。「ヒヒーン!ヒン!」馬が果てたようだ。黒人メイドが馬を女から退かす。フニャリとしたペニスからは未だ精液が垂れてる。女の股間がカメラにアップになる。拳がスッポリと入る大きさに拡がっている。カメラが膣口から内部を

映す。ピンクのヒダの奥には小さな穴が開いている。子宮口は馬に突かれてへこんでいる。股間からカメラが異動するとストレッチャーを押して白衣のナースが女に近づき拘束具を外していく。「え！脚と腕が無い」美月が驚く。「コレって裏社会で出廻っている本物の馬と人のセックス。次も面白いよ。」ジャングルの中にロープが渡され若い白人女性南米系女性、アジア系女性がロープに両腕を縛られ吊るされている。若い黒人の男も吊るされている。ボートが男女に近づき、白人女性の股間をボートの乗員が弄っている。「ヒグッ」指で掴まれ伸びたクリトリスに糸が巻かれる。同じ手順で乳首に糸が巻かれた。3人の両乳首、クリトリスからは糸が垂れている。黒人男性のペニスの亀頭部分にも紐が巻かれた。睾丸根元にも巻かれ睾丸が一つのボール状に成っている。糸の先には針が付いており慣れた手付きで生き餌の小魚を付けて沼に放す。全ての作業が終わりボートは男女から離れる。男女には猿轡がされ声が出せない状態に成っている。望遠レンズで男女を撮影している。小魚が動くと同じようにクリトリスや乳首が動く。「グゴ」黒人男性の睾丸が真下に伸びる。明らかに魚が食い付いた状態だ。食い付いた魚が暴れ睾丸が左右に引っ張られる。顔にカメラの影像が切り替わる。真っ黒な顔に眼球と口の横だけは白い。強烈な激痛に気絶をし、泡を吹いている。睾丸の位置が男の太腿に達した縛った根元から睾丸が千切れ沼に沈む。夕暮れ前の魚が活発になる時間帯だ。南米系女性の太腿を血が伝い池に落ちる。彼女だけクリトリスでは無く、肉のビラビラの奥、子宮内から糸が垂れている。目を剥き痛みに耐えている。糸が左右に強く動く度に出血が酷くなる。何分かして魚が浮いてきた。腹には別の魚に食いつかれた後。痛みに耐えた南米系女性の肉のビラの間、膣口からはピンクの肉が飛び出してポタポタと血を垂らしている。子宮口に楔を入れられ其処から糸が垂れてるようだ。白人女性は乳首、クリトリスが無くなり血が滴っていた。アジア人女性の右の乳首はギリギリ切れずに魚が浮いていた。男女の血が肉食魚を呼び吊るされた男女の下の水面がバシャバシャと波打ってい

た。「ウワァ！クリトリスってあんなに伸びるんだ。」美月が笑いながら影像を見ていた。麗華も男に胸を揉まれながら薄ら笑いで影像を見ていた。カクテルにドラッグが入っているみたいでクスクスと笑いながらキスをしたり胸を揉まれている。小百合は最初の影像で気分が悪くなり別室で眠っていた。正吉がジュラルミンケースと内視鏡を持って寝室に入る。真っ白なドレス姿の小百合は真っ白いベッドに横になる。正吉がキスをしようと小百合のピンクの唇に口を近付けると顔を背けた。「嘘だろ?ドラッグ入りのカクテルを飲んでも意識が飛んでいない。」「カリッ」頬から小さな音が聴こえた。正吉は興奮し何も聞こえない。小百合のドレスのボタンに手を伸ばし器用にボタンを外す。ふっくらとした丘を品の良いブラが隠している。全てのボタンを外してブラウスを左右に拡げた。パンティも純白にレースを施した高級品。今まで正吉が抱いた女にはいないタイプ。ブラホックに手を伸ばした。「ガシャンー」

寝室の窓から黒尽くめの男達が入って来た。先に催涙ガスを投げ込まれたようで正吉は眼が見えない。下でも大きな音が聴こえた。煙が晴れ、眼が見えると小百合はベッドに居らず、下の美月、麗華も連れ去られていた。「アイツらなに?おい！あの子は誰?」麻酔が罹り朦朧とした後輩を起こし聞いた。「名前しか知らない。百地小百合」正吉がネズに連絡を入れて百地小百合を調べるように指示をした。あの黒装束の特殊部隊のような男達。ドラッグが効きにくい身体。翌日、ネズから連絡が入る。「正吉さん。ＳＮＳにもの載らない、住所も不明。裏サイトでやっと有りました。本籍は伊賀。正吉さん、伊賀で百地。知りませんか?服部半蔵とかの?忍者の一族です。いまは公安部特殊部隊の指導官。一族は特殊部隊員が多数です。今の忍者です。その一族の長の娘が百地小百合です。」いいね。俺の組織に忍者一族か?「ネズ！拉致してくれるか?今いる人間爆弾、暗殺女子。アリスも使っていい。」「相手は国ですよ。良いんですか?こちらが潰されるか知れませんよ」「構わないよ。今までも潰されかけたし、消されかけた。裏の日本が手に入るんだ」

第十四章　秘密組織対忍者

「会長！コレを見てください。」白衣の男が和服に白髪の老人に資料を渡した。「催眠薬、淫薬、睡眠薬、コカイン」「これが小百合と友達達の血液から出てきたのか？」合成麻薬成分が医大生の身体から検出された。「あと、あの内貴正吉。彼の地元のＸ市ですが、５年前に抗争で大量に犠牲者が出てます。後、組織が使用した人間爆弾と人体に埋め込んで使うニードルガンです。」「それと人間爆弾の犠牲者とニードルガンを埋められた女性から今回の薬品の同じ成分が出ています。」「あの、内貴正吉、唯の医学生ではなさそうだな。身辺調査をしろ。警察、検察は使わず我が一族で行え！」「ドン！」診療室から爆発音が上がった。部屋の中には小百合の友人の美月が診察中だった。医師は絶命していたが看護師は重症で助かった。「クリトリス横のマイクロチップを取ろうとしたら爆発しました」麗華も直ぐにＭＲＩ検査をしようとしたが「建物内を全て妨害電波で覆い触診で検査をしろ」幹部の監物が命じた。麗華を耐爆服を着た隊員が調べるとやはり入れられていた。「会長！爆発現場より肉片内に残った金属片から合金が発見されたと報告が。それと金属片を取り出そうと医師がピンセットで触った途端に爆発したとの事です。」「直ぐに小百合も触診で検査してくれ。後、金属片の特定と内貴正吉の身辺調査を相手は人間を道具でしか見ていない」

ふとしたキッカケで正吉は日本を裏で仕切る影の特殊部隊百地小百合を拉致する。しかし、奪回されど相手の隊員ムラサキを捕まえ拷問し処刑。

第二部　忍者大戦

「会長！内貴正吉は出身は滋賀県甲賀です。あの地域は全てが元甲賀ですね。関ヶ原から逃れてあの地域に住みついた伝承が有ります。」「父は内貴大全。母親は亡くなってます。中国人です。異母兄弟が兄が二人。次兄は2年前にコロンビアでマフィア抗争に巻き込まれ死亡。母親はコロンビア1のマフィアファミリーのドンの娘です。兄弟同士の跡目抗争で母親、叔父、叔母、従兄弟も死亡。現在はメキシコマフィアが仕切ってます。」「正吉の幼馴染、佐倉花は5年前のX市での関西〇〇会との抗争で亡くなってます。」「その時に女体爆弾とバストから発射して殺傷するニードルガンが使われてます。抗争は関西〇〇会、佐倉の組織が壊滅。佐倉は死刑が執行されてます。爆弾、ニードルガン等は海外のマフィアに依頼したとの事でした」別の黒装束が喋りだしました。「7年前から地区で失踪者が増えてます。後、正吉の幼馴染、柊卓也の父は県警幹部です。もう一人の幼馴染は大倉鉄矢。現在はX市の警察署の警部補です。警察大学校卒業のエリートです。叔父は県会議員です。」「関西〇〇会の幹部の娘がこの地区に海水浴できて失踪者になってます。」「唯の医学生では無いな。引き続きの調査と小百合は?学校は休めないのか?」「もうすぐ実習が始まるとの事で休みたく無いと。」「仕方が無い。紅、ムラサキ、黒姫をボディガードに付けてくれんか?」「それと裏社会も調べてくれ。人間爆弾なぞは医学生に作れるモノでない」「後、警察関係と政治家には調査は隠せ。X市で何かがうごきだしている。後、過去の抗争と失踪者。頼むぞ」

二部1章　医大構内での戦い

「おはよう」同級生の千草が話し掛けてきた。

「おはよう。」「麗華と美月は学校を辞めたんだって。小百合は何か知ってる?」「いや、わたしも体調を崩して休んでいたから解らないわ」小百合は祖父から二人は救出作戦時に亡くなった事を聞いていたが喋らなかった。講習開始のベルが鳴り、助教授の白髪の男が髪の長い切れ長な眼に彫りの深い南米系女性を連れて入って来た。「今日から私の代わりに講師になる、マリア・ロウ女史だ。私は腰の手術の為にひと月休みます。ミス・マリア、自己紹介を」「マリアです。父は南米ですが母は日本と中国のハーフです。皆さま、宜しく」流暢な日本語で自己紹介した。講義室には小百合の護衛の紅、ムラサキが学生に紛れ、マリアには黒い看護師のイ、ハが紛れていた。４人とも普通の学生の姿に紅は部活の剣道の竹刀入れに日本刀を隠し入れていた。紅はマリアから異様な殺気を敏感に感じていた。この教室では事は起こらないだろうと感じていた。普通の男女学生が２０人。一般学生を巻き込みはしないと思っていた。小百合に黒い看護師、イが近付く。「こんにちは。あたし、看護学科の仁科明子です。百地小百合さんはサークルには入ってないの?」「あたしは剣道同好会に籍を置いていてこれ以上は」イこと仁科と喋っていた後ろにハが右手に注射器を持ち近付く。注射器が光ったのをムラサキは見逃さなかった。注射器を持った右腕が小百合の首に近づいた時に手首を掴み捻った。左腕を乳房に当て乳房をムラサキの顔に向けた。白いニットの先が爆ぜて、ニードルが飛び出しムラサキの髪の毛をかすめて天井に刺さった。紅が乳房を掴んだ腕を下から竹刀ケースで跳ね上げ軌道を変えた。すかさず、ムラサキの右の袖から短刀が滑り出て仁科の乳房を下から掬った。ニットごと乳房は赤い肉の断面を見せながら宙を舞った。紅は小百合をガードしている。マリアは音も無くムラサキに近付き首筋に注射器を刺した。マリアは煙幕を張り教室は真っ白な煙に覆われた。白い教室の床には仁科から削ぎ落とした乳房が転がり落ちていた。ムラサキはマリア、仁科、イと共に消えていた。

第二部２章　ムラサキ処刑

床がステンレス張りの部屋にムラサキは真っ裸で吊り下げられていた。頭の上で両手を縛られ、両足首は縛られ左右に拡げられていた。両目は縛られ真っ暗で辺りの気配は分からないが機械音が聞こえてきている。「コイーン。シャシャシャ」機械音は解るが何かは分からなかった。後ろに人の気配がした。両目を縛っていた布がとれた。凄い眩しさで眼が慣れるまでに少し時間が掛かった。ライトは2台。自分ともう一人、全裸で材木に固定された丸坊主の女性に当てられている。機械音が丸太を切断面する大型のノコギリの音とは初めて分かった。ハーフの黒髪の女性にムラサキは顎をクイッと上げられ「何処の組織か聴いても言わないわよね。自白剤が勿体ないし薬漬けの内臓は売れないのよ。あの子はミスのしすぎ。コレから御仕置。貴方も見ていなさい。」両足首を材木に固定され足を両側に拡げている。ヘソの下に横に赤色で線が引かれている。「カチン」「ウィーン。」銀色の円盤が高速で回転していく。「ガゴン」材木がユックリと全裸の女を乗せて回転している円盤に近づいていく。「アアァアアァ」頭を上げて回転している銀色の線を見つめる血走った眼。ムラサキも自分の将来を見つめている。「コイーン」煙のような木屑が回転するノコギリの歯の横に付いている透明のダストに吸い込まれていく。「フグゥフグゥ」血走った眼でムラサキを見たりマリアを見たりノコギリの歯を見たりしている。「何故、材木に縛り付けているか知ってる？人体だけならノコギリの歯の強さで股間がバラバラになるのよ。綺麗に切れるように緩衝材替わりね」「ほら、もうすぐ割れ目から切れて行くわよ」「コイーン」刃先が後、数ミリで小陰唇のビラビラに届く。「シャー」尿道口が膨らみ勢いよく銀の刃にかかるが風圧で霧のように霧散する。「ヒグッ」股間から血が霧のように飛び赤い霧がダストに吸い込まれていく。かすめただけで小陰唇のビラビラは霧散した。「ヒヒッ」仁科こと幸恵は気絶した。大学病院勤務時に気に食わない患者を医療ミスのように殺し、正吉の病院に移ってきた。医療ミスのような殺しをマリアに見

込まれ黒の看護師になった。霧のような血飛沫を上げながら幸恵の割目が伸びて行き赤い線が入っている所でノコギリの刃がバックしていく。黒衣の医師が脚の長くなった幸恵のに近付き足首の拘束を外して左右に拡げた。脚は左右に真っ直ぐに伸びた。股間に近付き切り口から両腕を入れ銀のトレーに臓器を切りながら出して乗せていく。一人の医師が首の血管に注射張りを刺して機械のスイッチを押す。注射針から出ている透明のチューブが赤くなり機械のタンクに血が溜まっていく。片方の乳房がない胸にメスを当て真っ直ぐにヘソまで切り込む。先に心臓を取り出しクーラーボックスに入れる。一時間ほどで幸恵の臓器、眼球は取り出され銀のストレッチヤーに乗せられ運ばれていく。一部始終はカメラで記録され、裏社会で映像化され出回る。「さぁ、貴方の番ね。貴方は貴方の組織に魅せないといけないから直ぐには殺さないわ。自分の組織の情報を喋る気は無いわよね」「コレ、何かわかる?」マリアの手には銀色の砲弾型のスチール製の器具が握られている。「苦悩の梨って知ってる?ヨーロッパの中世の拷問器具。アレの改良型で絶望の梨って言うの。スイッチを入れるとこうなるの」カチンとスイッチが入り砲弾部分が朝顔の開花のように捻じりながら開いていく。砲弾型から花の開花の形に成りながら花の真ん中には穴が空き、黒い空洞が真っ暗い穴を明けていた。

「何方が良い?前?後?嘘!前しか入れない。後は背骨に沿って神経とか血管が有るから直ぐに逝くのよ。」「直ぐに失神しないようにドラッグと筋弛緩剤、麻酔剤も打ってあげるわ。」腕と蟻のと渡りと言われる肛門と膣との間に筋弛緩剤を打ち込んだ。数分後、肛門括約筋が緩み、汚物が自然と流れ出す。尿道口も緩み膀胱内の黄色い液体も流れ出す。ムラサキは幼い頃から小百合を護り育ってきた。異性との交際経験も無い。化粧が落とされ幼い顔を真っ直ぐにマリアに向けて睨んでいた。「アタシは着替えるわ。その剛毛を処理してて」マリアは部屋を出て行った。黒子のような女性に下の毛を処理される。最初はカミソリを使っていたが「硬すぎる剛毛ね!」

泡の様なクリームを剛毛に塗りライターで火を付けた。「ボン」一瞬で黒い煙を上げながら陰毛が焼かれる。麻酔が余り効いていない為にジリジリと熱さが股間から上がる。ムラサキの特殊部隊員のプライドが声を上げるのを我慢させた。「バシャバシャバシャバシャ」ホースで水を浴びせられ股間下の汚物や陰毛が水に流される。「綺麗になったわね」マリアが黒のボンデージ服を着て部屋に入ってくる。黒髪に彫りの深い南米系女性特有の切れ長の眼に高い鼻。唇はぽってりとして真っ赤なルージュで褐色の肌を際立たたせる。ボンデージスーツの胸は空き型の良い胸が飛び出し乳首にはダイヤのボディピアスが光っている。ムラサキの胸を揉み股間に手を這わす。ビンクの割れ目に指を這わせて指を膣から滑りこませる。「アラ！個の娘、バージンだわ。どうしましょう。機械が最初で最後はかわいそうね。男は筋弛緩剤を打ったからガバガバだし、そうだわ。動物にしましょう。」「下に降ろして。木馬を持ってきて」黒子が滑車から降ろし、両足の拘束を外した。脚は筋弛緩剤で経つことが出来無い。が、拘束された両腕を器用に下を向いていた黒子の首に回し、力任せに捻った。「ゴキッ」黒子の首が折れて絶命した。余りに早いため、マリアは何が起こったか分からず、気づいたらムラサキを蹴り気絶させた。「こんなに腹が経つことはひさしぶりたわ。絶望の梨を持ってきて！アタシが処刑する」褐色の肌が赤くなり眼が釣り上がり、さながらインドのカーリー神のように見える。ムラサキは麻酔銃で撃たれ気絶した。

「パン！パン！」顔や胸を叩かれ、ムラサキは気絶から醒めた。銀色のトレー状のベッドに寝かされ脚は分娩台の様な形状に脚を拡げられていた。「死ぬ前に綺麗にしてあげるよ」小振りな乳房の上のビンクの乳首を指で引っ張られ真横にピアッシングガンでピアスを打たれた。左右に打たれマリアの指がムラサキの股間のピンクの突起に伸びた。包皮を剥かれ小さな突起が顔を出す。小さ過ぎて指で摘めないので銀色のピンセットで摘み引っ張る。筋弛緩剤が弱まりかけて居るようで鈍い痛みが股間から頭に抜ける。「カチン」ピン

クのクリトリスを横に銀のピアスが穿く。「アッッ」苦痛に歪む顔を見てマリアがニコリと笑う。「あなたのような特殊な訓練を受けた子たちは薬が効きにくいのよね。苦痛に耐えられずに速く死ぬ子が覆いわ。少しは耐えてね」マリアが手にローションを塗り陰毛が焼かれ剥き出しになったムラサキの肉薄のバージンの割れ目に指先からなぞるように指を這わし肉の襞をこねるように入れていく。「ピチャペチャクチャペチャ」ローションと少しずつ滲み出るムラサキの体液で卑猥な音が鳴り響く。音響を出す為に身体近くにマイクを置き、部屋に鳴り響かせる。一通りコネ回し指を抜く。指先には処女の証が赤く付いている。「大事な部下を殺さなければ苦痛に耐えながら死なないで済むのに。」手には銀のバイブ状の物を持っている。梨と言うより形状は茄子に似ている。銀の茄子はローションでテカっていた。指てブイの字にムラサキのビラと膣を拡げ茄子の尖端を膣口に押し当てた。「ズルン」「イタッ」膣内に鈍痛が走り茄子はスッポリと膣内に収まった。膣からは一本の線が伸びている。線の先にはモニターとパソコンが繋がっている。黒い看護師がモニターを見ている。「耐えずに大声を出して良いからね。その方が売れるから」「やって！」黒い看護師がパソコンを操作してエンターキーを押した。銀色の茄子は膣内で振動し型を変形させていく。茄子の先端が開き膣内で華が開き始める。真ん中にはレンズと黒い穴。ムラサキは下腹部か膨れるのを感じた。まだ、耐えられる。レンズはムラサキの横に長く筋の様な子宮口を映す。黒い穴から細長い管が伸びて子宮口から中にはいる。レンズには暗い中で小さなライトが照らす子宮壁が写る。本来は新たないのちを宿す場所。レンズ先から子宮壁に向かって液体が噴霧される。「ヌグゥゥ」ムラサキの眼が大きく見開き眼には涙が溜まっている。しかし悲鳴を上げずに歯を噛みしめている。膣口から煙が吹き出す。噴霧しているのは肉体を溶かすために調合された強酸で普通は遺体を溶かすために使う。その液体が女性の敏感な場所に噴霧される。子宮壁が溶けていく。ムラサキには恥丘の内部が火箸で突かれているような感覚だ。子宮

壁の半分が溶けた。黒い穴は少しずつ拡張していく。股間に腕なら楽に入りそうな穴がひらく。その穴から医療器具を入れ左右に作業をする。ムラサキは無視の息だった。下腹の右がボコボコ動き穴から肉の紐が付いた黄色いた卵形の臓器をが出てくる。左も同じ卵が出てくる。つぎに長い小腸がズルズルと穴から這い出す。少しずつムラサキの腹はへこんでいく。唇から血を流してムラサキは事切れていた。マリアが胸を切り心臓を取り出した。全ての身体の傷を縫合し縫合後に特殊パテでメイクをして下腹の穴から液体シリコンを流し込み作業が終わった。「ア！綺麗にメイクとドレスを着せて明日の早朝に駅前のベンチに置いてきて。バッグに一部始終を録画したマイクロＣＤを入れてね」

翌朝、駅前の清掃をしていた業者がムラサキを発見した。深紅のドレスに髪を整えメイクをしたムラサキが力なく地面を見ていた。警察からの連絡で百地の特殊部隊がムラサキを連れ帰った。叫ばずに耐えた歯は全て折れていた。バッグの中のＣＤを再生して一番、怒りに震えたのが紅と会長だった。「絶対に組織は壊滅させろ！後、警察幹部に連絡。柊卓也の父と大倉鉄矢は移動。特に柊には情報は流すな。大倉鉄矢は北海道に移動だ！」「後、大学のカメラに写っていた根津と仲間は生け捕りにして情報を吐かせろ。殺しても構わない。中東に派遣した雷と鎌鼬を呼び戻せ」

特殊部隊の反撃開始

第3部

第一章

ネズとボム拉致改造

真っ黒な雷雨の中をアメリカ軍の輸送機がフラフラと風を受けながら滑走路に降り立った。グレーの機体の扉が開きタラップが横付けされると黒の高級車がタラップに横付けされた。長身の女性兵士が2人、タラップを降りてくる。初めに黒髪を後ろで束ねた女性。コードネーム鎌鼬。特殊部隊では風神と呼ばれている。袖が異常に長く膝下まで有る。手の長さは分からない。後の女性は金髪のパーマをなびかせながら降りてくる。アジア系の顔立ちから染めているのかは分からない。金髪に幼いアジア系の顔立ちの下は筋肉質な体をしている。身長も鎌鼬と変わらない。コードネーム雷。二人は司令部にも入らずに黒いセダンに乗り滑走路から直ぐに基地ゲートを抜けて都内に向かった。

ネズとボムは大学から慌てふためき空港にタクシーで向かっていた。タクシーが高速を降りて空港に向かう道で検問が行われている。ネズ、ボムはズボンのポケットの銃に手を掛けて身構えている。タクシー運転手が警察官の前でた。タクシーの横に近付き、手で窓を下ろすジェスチャーをする。警官の後ろにも婦警が二人、いる。「ハイ！検問で！」後の婦警がタクシー運転手を撃ち、男性警察官と後の婦警がネズとボムを撃った。麻酔銃なので命に別状は出ない。タクシーの後の扉を開きネズとボムを引きずり出し直ぐに鉛で車体を覆った車に乗せて走り去った。タクシーの後部を開けてネズとボムの荷物を鉛のケースに押し込み別のパトカーで別々に走り去る。ど

ちらに追跡装置が付いていても本部を分からせなくする方法だった。一時間後に白バイ隊員がタクシー運転手を起こす。麻酔と記憶を曖昧にする薬でタクシー運転手は人を乗せた記憶は消えている。疲れてうたた寝をしていたと思っている。

第2章　白の拷問と肉体改造

ネズが薄っすらと眠から覚めた。四つん這いで拘束台に固定されている。起きて分かったが全裸で拘束され、下半身は感覚が無い。不安に思い自分の性器を確認するとギンギンに勃起している。そして、無限に射精している。興奮することも無い。ただ四つん這いで全裸で目の前の銀色の機械に映る自分の顔を見ている。「やっと起きたね。下はビンビンだけど」耳元で声がする。顔は固定され動かせない。「肛門を拡げて前立腺に電極を刺してるの。余りに長いと勃起しなくなるわよ。最悪、血行障害で腐るわよ。」「で！貴方の組織と仲間、何故、小百合様を拉致をしょうとしたのか？言わないと精液が無くなって血が出てくるよ」「オシャレか何か？ペニスに色々と入れて。スゴイね」ゴム手袋越しにペニスのイボをイジる。ネズは首を振るしか無かった。喋れば爆発する。正吉は幹部には有るワードを言えば起爆するように改良している両手は動かせたのでジェスチャーで紙とペンが欲しい事を伝える。全身、防護服を着た看護師がペンとボードを持って来て渡した。ネズは全てペニスのイボの事を書いた。ワードで起爆。特殊なメス、医療機器でしか取り出すことが無理。「ナルホドね。」「グレー！特殊防爆室に手術室を作って。後、防爆服。アタシが手術をするわ。」建物内に簡易防爆室を作りネズ、ボムが運ばれる。「さあ！貴方達を自由にして上げる。二人に麻酔。」麻酔が効き二人は眠りにつく。陰毛を剃り上げた恥骨の上からメスを入れて脚の付け根にメスを走らせた。何センチで起爆するか分からないので大きな切除に成った。鉛の箱に切除したペニスを納める。「このペニスのイボの成分と使われている金属。相性が合う金属を調べて。数年前の人間爆弾もこの改良版でしょう。

」防爆室から看護師が台車に乗せた鉛の箱を運び出した。「さあ、ペニス無くなったから女性にしてあげないとね。今まで女性で商売していたから自分達も女性に成って稼がないと」ウキウキしながら白はネズとボムを女性に整形していく。別室ではペニスが機械に入れられ成分分析、ＡＩで起爆しない電磁波、レントゲン、アルファ波、色々な機械に干渉しない電波を解析した。

「解析しました。金属に干渉しない金属はアメリカの貴金属メーカーが作ってます。電波は全て干渉しますから取り出してからの分解になります。」渋い顔をしながら会長は聴いている。「政府経由で金属を入手して手術器具を作りカプセルの解析を頼む。あと、拉致した二人から組織の内実を履かせろ。」「はい。」白は頭を下げ会長室から出ていく。机の横のサイドテーブルには惨殺されたムラサキの遺影と花が置かれていた。

３日後にネズとボムは目を覚ました。股間に有るべき物が付いていない。尿道からカテーテルで尿はベッド下にタレ流れている。顔は包帯で巻かれて感覚が無い。胸に手を当てると膨らみが有る。病室が開き、白が入って来る。「おめでとう。今日から女性として生きて。今まで、女で食べて来たから」「さぁ。全て喋って貰うわよ。」「貴方の組織と仲間について。後、大学での襲撃事件。この、女は誰？」

「知らない。」え？誰の声だ？

ネズは高い女性の声を出した。

「貴方の声も変えたの。そのまま、貴方達は沖縄の売春組織に売るわ。じゃあ、外国人用に少し拡げないとね。」ネズの股間、尿道口の下あたりが強烈な痛さが襲う。「グァー」隣の部屋から女性の叫び声が聴こえる。「貴方の友達も始まったわね。」「イギィー」ネズも股間が裂ける痛さで叫ぶ。「人工膣だから拡げないと塞がるのよね。拷問にもうってつけだけどね。で、この女は？」「マ、マリア。フルネームは知らない。正吉さんが東南アジアから呼んだ殺し屋。」「じゃ、アソコに爆弾を入れた娘達は何人になるの？」「分

からない。売春組織の女とX市で売りをしている学生。主婦。」「じゃ、コレが起爆スイッチの機械？全て爆発するの？」「全てはしない。爆発しないタイプも有る。耳にイヤリングで目印を付けている。それで分かる！」「じゃあ、正吉の正体は？」「知らない。元は俺たちは兄貴の方の部下だ。寝返った！」「じゃあ、武器や弾薬、薬、殺し屋は何処から？」「武器は米軍の廃棄品扱いを横流しとメキシコマフィア。薬はコロンビアマフィア。殺し屋は東南アジアしかわからない」「わかったわ。あ！その膣を拡張する器具は一週間は外さないから。せっかく名器に作ったのにもったいないでしょ」白は静かに部屋を出ていった。

壊滅に向けて

第四章　人間爆弾救出作戦

「はい！警察！全員検挙！」

沖縄、那覇市内のテナントビルに大勢の捜査員が入り組織の男達は逮捕。女性は特殊バスに乗せられた。バスは妨害電波を発生させて爆弾防止仕様になっている。電波の干渉も受けず中には防爆服を着た男達が女性を金属探知機のような機械で調べていた。全ての女性の股間に何かのカプセルが埋められているようだった。地元の女性は少なく、殆どが正吉の地元X市周辺圏と首都圏が大多数だった。同時期に沖縄米軍基地、正吉の親が経営する病院、診療所、全てに警察、公安等が女性を保護しに入った。抵抗が強かった場所が花の親が組織のボスだった建物と海沿いに有る正吉の病院だった。正吉の病院にはマリアと東南アジアから、サリ。そしてメキシコマフィアからも応援が来ていた。忍びは下忍のくノ一は桃、灰、黄緑、茜の四人。メキシコマフィアからは銃弾。そしてサリの不思議な触れるだけで血管を破裂させる技でくノ一達は負傷して行った。警官、公安、特殊部員の殆どが重症や死亡。くノ一も茜は逃げ切ったが桃、灰、黄緑は正吉達に拉致されて連れて行かれた。

第5章　くノ一無残

「こいつ、いい女だな！抱いたら駄目か？正吉！」身長１８０以上は有るレスラーのような体格の男が黒い髪に赤いメッシュの入った女の胸を触りながら正吉に声をかけた。「鉄ちゃん！少し待って、一応は金属探知機と隠し武器が無いか調べるから」「わかった。何

とも言えない欲情する女だわ」大倉鉄矢は北海道の警察署を退官して、正吉に合流していた。鉄矢の同僚から漏れた情報で正吉達は病院に戦力を集め検挙から逃れられた。坊主頭に格闘技で鍛えた身体。子供の頃からカエル、猫を笑いながら惨殺していた残虐性を表す蛇のような眼をしていた。桃は美人ではないが可愛い可憐な感じでポッチャリ体型に幼い顔、つぶらな瞳が男受けする感じだった。鉄矢は我慢出来なくなり瀬戸内の離島に有る隠し別荘に有る部屋へ桃を連れ込み全裸にした。強精剤やドラッグをしていないのに桃の胸や身体から薫る色香に我慢が出来なくなっている。「鉄矢も好きだな」柊卓也が正吉に呟く。「一応、秘密組織の女だろ?検査はしたの?」「ナース達にレントゲンとCTは受けさしたよ。全員が武器なしだと。どうせ組織のしただろ?」別室の鉄矢達は蛇が2匹、絡まったように抱き合っている。喘ぎながら少しずつ桃の胸から下が膨らんでいく。鉄矢は興奮して桃の下腹の異常はわからない。鉄矢を下にして桃が鉄矢の腹の上に跨った時に鉄矢は桃の体型異常に気がついた。すかさず桃は鉄矢の鼻を摘みディープキスをするベッドの二人が浮かんだ。「ドスン」別室の正吉達にも聞こえる大きな音だった。鉄矢は眼から耳から血を流し絶命していた。特に胸は鳩のようにパンパンにふくれている。桃は元の体型に戻っている。「鉄ちゃん!どうした?」異常に気がついた二人はベッド上で鳩胸で亡くなっている鉄矢を見た。桃の暗殺術は幼い頃より飲んでいた男を誘うホルモンを出す薬と一息で相手の肺を潰す技。全ての体力を使いベッドに倒れた鉄矢の横で桃も力果てた。「コイツ!鉄ちゃんを」卓也が銃を桃に向ける。「タックン!駄目だよ。銃なら苦しまずに死んじゃうずゃんかさ。苦しませて殺さないと。動画配信は売れるからね。ココはスグに見つかりはしないからね。「おい!マングリ返しで砂浜に固定しておいて」ナース連中が桃を担ぎ上げて別荘から、出ていった。「鉄ちゃん!お疲れ。せめて埋めてあげるから」「あおい!裏の木の根元に埋めておいて」何かのペットか何かのような扱いで幼馴染みの亡骸を直ぐに埋めさす。「ヤッパリ、正吉って昔から

感覚が変だよ。花が死んだ時も鉄ちゃんも！」「タックン！死んだら肉だよ！みんな！」「さて、鉄ちゃんを殺した女をどうしようか？」銃を持って正吉は出て行く。卓也も後を追い出て行く。砂浜には女のピンクの裂け目を朝焼けに照らされた桃がマングリ返しの状態で砂浜に固定されている。Fカップの胸は重力によって左右に垂れて砂浜に着いている。正吉は乳房に銃口を向け撃った。「ガゥッ」垂れた乳房の付け根が赤くなり砂浜に黒いコルク状の物が転がる。「撃ち殺したと思ったよ。何？ゴム弾？」「そうだよ。直ぐに殺さないよ。おい！」部下が金串を数本、正吉に渡す。「こう使うんだよ。」横に垂れて砂浜に着いた乳房に金串を刺す。「アァァァァ！」足で金串を踏み砂浜に突き刺す。左右対称に乳房は砂浜に固定された。「後はココかな？」ゴム弾を装着した銃の銃口を桃のピンクの裂け目から中に押し込んだ。膣壁をかき分け子宮に銃口が当たる。「バス！バス！バス！バス！」「ガハ！ガハ！グハッ！」下腹部の中、女の一番、敏感な所を至近距離で撃たれ桃は気絶した。裂け目から銃口を抜くとビンクの体液が銃口から滴り落ちた。「おい！後はココとココに焦点を当てて準備してカメラは股間と乳首に向けて頼むな。猿轡は自害しないように。」そう言うと銃を持ち正吉は別荘に帰った。

卓也が桃の股間を見ると膣から黒いコルクが顔を覗かせていた。桃は朝日では無く乳首に走る鈍痛とクリトリスから脳天に突き抜ける痛さで目が覚めた。乳首がジクジクと痛い。乳房に刺さる金串よりも乳首が痛い。顔を下にして自分の乳首を見た。乳房に刺さる金串にルーペが付いている。朝日を集め乳首を太陽光が焼いている。サーモンピンクの乳首に光の点が出来て、そこから煙が上がり始めている。肉を焦がす嫌な匂いが充満している。両脚を固定している鉄柱にもクリップでルーペが付けられ一方はクリトリス。もう一方は膣に置き去りにされた黒いコルク状の玉に当たっている。太陽の加減で直接にはクリトリスに光は集中していないが後、数時間でクリトリスも焼かれる。膣のコルクには光が当たり黒煙を上げている。

溶けた黒いコルク状の物の液体が膣内に充満していく。
「アグアグアグアッ」猿轡で悲鳴も上げられずに大きな瞳からは涙を流していた。
壁一面のモニターからは桃が焼かれていく様が見える。ソファに正吉、卓也が座り、マリアはカタチの良い黄緑の尻を撫でながらモニターを見ながら笑っている。黄緑は全裸にされ天井の滑車から降ろされている。まだ拷問は受けてない。灰は銀色の三角木馬に乗せられた状態でモニターを見ている。木馬の上部には竹製の物が敷かれ吊るされているので股間に痛さは無い。灰の内臓にはＧＰＳが埋め込まれていた。どんな機械にも反応しないように出来ている。わかれば先に桃の様になっているのは自分だった。
東京の本部ではＧＰＳの解析をしながら東南アジア上空の輸送機に位置情報が流されていた。機内には風神、雷神、紅、群青、白など精鋭が降下を待っていた。特に紅と群青はムラサキの上司に当たるので自分がマリアを殺す気でいた。

灰の救出と桃の最後

第六章　灰の救出。

正吉達は特殊部隊のくノ一達が位置情報を本部に送ると思い、灰は東南アジアマフィアの本部に連れて行き、桃、黄緑は瀬戸内の離島で監禁していた。灰のＧＰＳを頼りに精鋭部隊は東南アジアの島々を探し、瀬戸内の離島には気付いていなかった。

昼になり太陽は一番、桃の真上に来た。初夏の太陽がルーペで一点に集まり数百度に上がっている。直ぐに脱水症状が出ないように漏斗で強引に水分補給はされる。ジリジリと両乳房に鈍い痛みは有る。だが、股間のクリトリスには感覚が無い。ピンクの肉目は焼かれ炭と化していた。だが、一番のキツイのは子宮と膣が少しずつに煮えた状態に成っていることだ。ゴム弾は全て液状化して、膣内に充満して子宮口から子宮内に垂れている。へその下、恥骨の奥が熱を帯びて、鈍痛がする。まだ、子宮と膣壁には感覚が有った。灰は夜間に水上飛行機で東南アジアに連行された。サリの不思議な触れるだけで血管を破裂させる技の応用で灰の内臓のＧＰＳがばれた。三角木馬に乗せられ手を天井から吊るされ馬の上で背伸びをする状態にしたのはサリが見つけやすくする為だった。「この子だけ本部に送って！他の娘には無いわ。処分は本部に任せるわ。」裸に毛布の姿で夜間のうちに灰は東南アジアに連行された。本部には連れて行かれず、香港のワンに売られた。ワンは女体凌辱と改造が趣味の資産家で正吉からも女性を買っている。灰は後ろ手に縛られ、両脚と後ろ手を繋がれ海老ゾリのカタチでトラックの荷台に乗せられ運ばれている。荷台には少銃を持った男が二人。森林を抜けた先にコンクリート作りの建物が見えてきた。建物の駐車場に着いた。建物から小太りの男とレスラーのような巨体の男が二人、出てきた。荷台に

転がる灰を見て、股間に手を伸ばし灰の性器、肉ビラ、膣内に指を入れたり引っ張ったり嬲っていた。「コン！コキン」足首の拘束が緩み両手首の拘束も緩んだ灰の身体が荷台から身体のバネで跳ね上がりワンに巻き付いた。首に拘束されたロープを巻き両脚は胸を締め付ける。ワンは驚きの表情のまま、上を向き顔が紅くなる。少銃を持った男は狼狽えているがワンのボディガードは無表情で灰の腕を持ち手羽先の肉を剥ぐ様に引っ張る。煮込んだ豚足から肉を剥ぐ様に灰の肉、筋が剥がれる。「ガァ」左腕の肉を剥がされても気力で締めていたが腹部の太ももに両手を添えて太ももを割る様に広げた。綺麗に別れた太もも内に白い神経と筋が見える。ソレを指に掛けて引っ張り切って行くと、締めていた力が抜けてボトリと地面に崩れ落ちた。「ボス！大丈夫か？」笑いながらレスラーはワンに声をかける。「死ぬと思ったよ」笑いながらワンが返答する。「コイツ、どうする？」「ワシを殺そうとしたんじゃ。突起は全て引きちぎりジャングルに捨てておけ。生きたまま、ジャングルの虫や獣の餌になるじゃろ」「ボス！楽しみくれるね」右の乳首に人差し指と親指ではさみ、パンを千切るように千切る。「イギィ」次は股間に手を伸ばし灰の肉のビラとクリトリスを選ぶ。ソレを見ながら笑っているワン。

「バサバサバサ！」二人の頭上から黒いカラスのような黒い物体が舞い降りた。「ら？」ワンの胴体から頭が地面に落ちた。雷と鎌鼬がＧＰＳを頼りに輸送機から降下してきた。鎌鼬に少銃を向けた兵士を手で撫でる動作をすると５メートル離れた兵士の首が落ちた。鎌鼬がレスラーを切るように手を振ったが腕で受けた。腕に赤い筋が付くだけで切り落とせない。「雷！斬撃は無理だ。任すよ。私は灰を助けて建物を制圧するよ！」「分かったよ！スグに終わらせるから」レスラーはタックルのように雷に抱き着こうと来るが雷の身体が磁石のように反発する。雷の特異体質の体内電流を自在に動かし、相手の体内電流を反発させる技を出す。レスラーも斬撃、銃撃は効きそうに無い。雷が両手を空に向けて上げた、青空が急に暗く

なり雷雲が沸き立つ。　雷雲の中に稲光が光る。両手をレスラーに向けて下げると雷雲から稲妻がレスラーに向けて落ちる。火柱を上げてレスラーは絶命していた。特殊部隊のヘリが建物前の駐車場にユックリと降りてくる。雷は灰を抱き上げヘリに乗せる。傍らに落ちた乳首も渡し「スグに病院に搬送して！まだ、付くかもしれないから」そう言うと建物にはいっていった。廊下には首が落ちた残骸が多数、落ちている。各部屋に座敷牢が有り中には女が動物のように首輪をされて隅に蹲っている。建物の奥から金属を叩く音がする。奥の居間で鎌鼬と手、髪の毛の先に刃物を括り付けた女が闘っていた。「あれ？苦戦してる？」「間合が似てるんだよ。」「早く終わらせるから、あれを使うよ。」そう言うと雷は手のひらでボールを作るように上下左右に動かし始めた。手のひらの中に青白い光の玉が出来ている。ソレを鎌鼬の前に投げると鎌鼬の右手が玉を切り裂くように動いた。旋風が出来て、中では稲妻が渦を巻いている。そのまま、相手の身体に当たると女は青白い炎を上げて絶叫した。青白い炎に包まれて床で転げ回る。「受けた恨みは忘れない」と言い残し自害した。「後はこの国の軍隊と外務省に任せて黄緑と桃を助けないと」建物から出て軍用ヘリに乗り込んだ。

第七章　桃の最後

日が昇りきり、桃の乳首は炭化して崩れ落ちていた。クリトリス後にはまだ、股間を照らしクリトリスの下、尿道口を照らし小さな穴を焼いている。

卓也がバケツに水を入れて桃に近づく。股間の膣口に紐を先にたらしてバケツの水を一気に股間にかけた。黒い液は急激に冷やされ膣内から子宮内にかけて固まった。紐の先を海辺のボートに引っ掛けるとエンジンが掛かった。ハンドカメラを構えて卓也は桃をカメラに収めようと構える。水をかけられて薄っすらと桃は眼を開けていた。卓也が手を上げるとボートのエンジン音が変わり紐がピンと伸びる。

「イイィィ」モリモリと膣口から固まったプラスチック製の膣型がユックリと出てくる。固まったプラスチックは膣壁を擦りながらユックリとモリモリ、出てくる。黒い膣型には体液と血液が着き少し止まる。卓也は紐を部下に引かせる。「グェアァ」黒い膣型の先からピンクのピンポン玉が黒いプラスチックの紐に引かれて出てくる。「ガハァ」息を吐き桃は絶命した。痛さに耐えられず奥歯に仕込んだ毒で自害した。「チェ！毒で死んだら内臓は売れないよ。」紐に付いた黒いプラスチックの膣型を振りながら呟いた。「後は一人かアイツはどうするんだろ？」ユックリと別荘に帰って行った。

乳房破裂

第八章　黄緑の処遇

天井から吊るされた滑車から垂れた荒縄に黄緑は吊るされ執拗に尻や胸をサリに触られていた。サリの掌は微妙に振動をしている。黄緑は捕まった灰、桃よりも色白な和風美人で黒い艶の黒髪を肩まで伸ばしていた。薄ピンクの唇に猿轡をされて自害は出来ないようにしている。先程まで桃の絶命するまでの模様を目の前のモニターに写していた。「う～ん。殺すのは勿体無いな。かと言って大人しく売春はしないと思うし。サリの意見は？」「はい。自害用のカプセルは取り歯を全てインプラントのソフトプラスチックにすれば舌も噛みきれません。客のイチモツもかめないですから苦情は無いでしょう。後は足の筋を切れば逃げれません。膣を改造して、ワーム型のカプセルを入れて振動、微電流等、名器に変えれます。」「いいね。全てサリに任せるから改造して！頼むよ。」

黄緑は全裸にされ分娩台のような椅子に拘束されていた。股間の邪魔な陰毛を剃るためにサリの部下がカミソリと毛抜きで全て処理した。「さあ、先ずは膣壁を改造するわね。先に中をほぐして…」サリが人差し指と中指を入れて膣内を念入りに揉みほぐしたり、指を入れたままクリトリスを揉み黄緑の顔を見ながら反応を見て楽しんでいる。

「アッアッアッ！」クリトリスを舐めようと顔を近づけて舐めようと舌をピンクの豆に近づけ舐めた。「アッウン！ハァ…」黄緑の顔は赤くなり身体も、紅くなる。一通り舐めた後、顔を上げたサリの顔に黄緑の愛液が膣口から勢い良く飛び出し眼と顔にかかった。「ウギャー！アツイ！イタイ」ボンデージ姿のサリは床を転げ回りながら顔を押さえて悶ている。黄緑と特異体質の愛液が強酸化する技

がサリの眼を潰した。顔の半分に包帯を巻いたサリが戻って来た。黄緑は自分の死期を感じる。

「やはり。何かの技は持っているわね。私も技を披露して上げるわ」触れた身体の血流を自在に操るサリの手が黄緑の右乳房に置かれた。小さな振動が乳房に伝わり右乳房全体が振動しだす。掌サイズのDカップの黄緑の胸は急に小さなスイカサイズに腫れ上がり乳房全体が赤紫に変色する。「グッァァァ」乳房表面の血管が膨れ「パン」風船を付いたような音を立てて弾けた。「アァァァァァ」黄緑の胸は弾け右乳房はください無くなった。「次は女が一番、痛がる所を破裂させたげる。」右手の人差し指と親指で黄緑のクリトリスを掴むとサリの腕の筋肉量が増えていく。クリトリスを握り潰すのではなく指先に微振動を伝えている。クリトリスにバイブを当てられた振動がするが乳房の痛さに黄緑は悶絶していた。摘んでいる指先も振動しだすと、小豆大のクリトリスが徐々に膨らみビー玉大の大きさになる。破裂した胸も痛いが股間を針で刺される痛みが頭の先に走る。「ペチュ」サリの人差し指と親指の間で赤く爆ぜた。「ヒギィ」

苦痛で眉間に皺を寄せて悶絶している。「女じゃ無いから売れないわ」首筋をなぞると黄緑の顔に血管が浮き上がり窒息死したように息を引き取った。「マリア！こいつ等生け捕りにしても厄介だぞ。次からは生かさないからな！」顔を押さえながら監視モニターをサリは睨んだ。「正吉！東南アジアに運んだ奴、救出されたって！どうする？島を離れて立て直す？東南アジアの本部から応援を呼ぶ？」

「どの道、やり合うからココでするよ。本部からサリクラスの殺し屋を後、3人は呼んでいて！なるべく、虐殺が得意なやつ」東南アジアのワンの別荘でボディガードのレスラーが雷と、鎌鼬に殺られる動画を見ながらそうマリアに笑いながら指示をした。

乳房の豊胸手術

第九章　決戦前

厚木米軍基地内に有る建物内で全身黒ずくめの女達がミーティングをしていた。東南アジアから帰還した雷、鎌鼬。長い髪先を蒼色に染めた群青。髪に赤いメッシュが入った紅。緑の髪に軽くパーマをかけた髪が印象的な深緑。そして般若面をした黒姫。特殊部隊のくノ一の精鋭が集まり正吉達の襲撃を考えていた。「相手も兵隊を増加させているから若い子は連れて行かないよ！茜は行きたいって言っていたがバケモノクラスが何人かいるから下手に連れて行かない。サリの触れるだけで血管を破裂させる技の解析は？灰の目のカメラから見る限り、血圧を操るよりも気功か微振動を血管に直に伝えているね。鎌鼬の斬撃と黒姫で両手を切れば何とかなるね。問題は紅を圧倒したマリアと言う女と増援して来るバケモノクラスの暗殺者だね。五色も連れて行くか？」「そうだね。増援部隊が何人かわからないから頼んだ方がいいね。艶葦は桃の姉だろ？恨みを晴らしたいって言っていたし。他の娘達も教え子が殺られているからね。」「じゃあ、鎌鼬と雷、黒姫はパラシュート降下で、後の私達と5色は水上からホバークラフトで砂浜から乗り込むよ。機銃掃射しながら島に乗り上げて各自、全員を掃討。特に内貴正吉は絶対に。」「作戦は今夜午前2時ジャスト！みんな、仇討ちするよ」深緑が今回のミッションのミッション指揮を任されていた。

「ヒギィ…イタイ！イタイ」

ミユキが看護事務で内貴クリニックに入ったのが半年前だ。同期より給料は良いし、休みも有る。

気になるのは、グレーのナース服に身を包んだナースと時々、院長代理のアリサと言うハーフの人が目付きの鋭い人達に会うことと別館は絶対に立ち入り禁止な事、だけだった。地方都市にしては破格

の待遇だった。まさか、黒尽くめの特殊部隊に急襲され目の前で銃撃戦を見るとは思いもしなかった。言われるままに事務資料を持ちクルーザーに乗せられ何処か知らない離島の建物内で全裸にされ鎖に大の字に拘束されるとは思わなかった。顔を横に向けると同期のリサが乳首に切れ込みを入れられて細い管を押し込まれていた。目は上を向き、鼻水とヨダレをたらして黒いナース服の連中に胸を改造されていた。細い管を乳首の切れ込みから入れ３０センチは有る管で脂肪吸引をしていた。リサの自慢の乳房は見る見る萎み、身体は若いが乳房は老人の乳房のようになった。両乳房をシワシワにしたあとに今度は別の機械を持って来て又、乳首の切れ込みから管を入れて萎んだ乳房の中をかき回すと今度は膨らんで行き、もとのカタチの良いリサのＥカップのバストが元に戻っていた。最後に切れ込みを入れられた乳首に銀の乳首型のカップを被せて手術は終わった。「この娘は半年前に入った事務の子ね。」声は整形外科専門のナースをしている伊東と言う人に似ているが顔を黒いマスクで覆い、目しか見えない。「じゃあ、薬でハイにしてあげるからね。貴方、ＢぐらいしかないからＤにして上げるわ。喜びなさい。」そう言うと腕に注射針を打たれたがミユキは昔から麻酔が余り効かない。「イギャ！アダイ！イダイ！」「駄目だわ！この娘は麻酔が効きにくいから無理だわ。メキシコマフィアの１０人に渡しましょ。さっき渡した娘は壊れたでしょ！連れて行って」ミユキは簡易的に乳首の傷を処置されて建物の二階に有る男達の所に連れて行かれた。２階に有る５０畳は有る大宴会場は外国人１０人には狭く全員が酒とドラッグでハイになっていた。「カーン！カーン！」「アグッ！アグッ！アグッ！」一人の白人がバットを振っていたが振り下ろしている先に白い尻が見える。テーブルにうつ伏せて尻を突き出している。尻から棍棒が突き出している。ソレを目指してバットを振り下ろしているのでバットと棍棒が当たり金属音的な音を出している。散々、いたぶりった後でやる事が無いのだろう。尻の穴はポッカリと空き血が滴り陰毛は毟られ膣穴はポッカリと空き木製の棍棒を突き出し

ている。連れて来た黒いナース服が英語で何やら外国人と話、突き飛ばしてバットを振り下ろしていた外国人に抱かれた。レスラーのような丸太のような腕で抱え込まれ、大型ベッドに抱えられて連れて行かれた。グローブのような手のひらで処置仕立ての乳房を揉みしだかれた。激痛と共に血と白い体液が再度、傷口から出てきたが、外国人の股間からイキリ起つビール瓶大のペニスに恐怖した。

正吉の組織解体

第十章　決戦とナース救出

正吉と卓也は早朝、別荘の中を歩いて廻っていた。二階のメキシコマフィア達の大イビキの中を歩いてまわる。受け付け事務で見た娘が二人、股間から棍棒を突き出して口から泡を吹いて眼を開けたまま絶命している。「タックン！思うんだけど南米系って意味の無いことするよね。アソコに棍棒を突き刺して殺す意味ってあるの？」「ソレを言ったら僕達もナース連中を爆弾に変えるんだから鬼畜だよね。」「不利になったらタックン、逃げるからね。奴等に殺られないでよ。」「東南アジアだっけ？遊ぶ所は有る？」「女達をいたぶる事なら毎日、出来るよ」「でも正吉君も特殊部隊の元締で忍者の末裔に手を出すかな？」「嫌、仲間に入れたらラッキーだし、どちらにしろぶつかるよ」「花が逝って、鉄ちゃんも殺られたかぁ。」「ハハハ！僕達、子供の頃から結構、殺めたからね。普通の警察に捕まっても死刑だよ」「まあ、メキシコマフィアと黒いナース、マリアとサリ、後の応援の三人がくノ一達を足止めしてくれるから、その間に逃げよう。大丈夫だよ。その為に人間爆弾を結構、作ったんだからね。」薄暗い空が白く変わって行くのを二人で見ていた。朝になり沖からエアークラフトが3隻、近づいて来る。沖のエアークラフトから双眼鏡で浜辺を見ると全裸の女性が三十人程、日本刀や少銃を持ち上陸を待ち構えている。腹には番号が書いている。その後には銃火器を持ったマフィア、その後にサリが立っている。サリの両隣には二人、ガウンで全身を覆った女性が立っている。東南アジア本部から呼んだミヤとミラの姉妹を呼んだ。「貴女達との戦闘は考えていません！ナースの皆さま、武器を捨てて十字の旗を立てているホバークラフトに乗り込んでください。妨害電波仕様で貴女達の起爆は防ぎます。手術で直った方もいます。」「整形病棟の

マコです。政府が身体に付いた爆薬やカプセルは取り除いてくれます。」「シッ！」マフィアがホバークラフトに向けてロケットランチャーを打ってきた。「波高壁！」ホバークラフト前で水の壁がランチャーを阻止しホバークラフトは無事に浮かんでいる。助かると思ったナース達は一斉に武器を捨てて海に飛び込みホバークラフトに向かって泳ごうとした。そのナースに銃口を向けてマフィアが撃ち殺そうとする。先頭の１０と書かれた女性に当たり爆発する。「アイツら女性を爆弾に変えている！」「先に外人部隊の殲滅に変更！」鬼姫が指示を出す。空からカイトに乗って島に近付いていた鎌鼬、雷、白が飛び降りると、鎌鼬の両腕が延びる。一気にマフィアの首が跳ね上がり切り口から血を吹き出し倒れる。泳いだ数名のナースがホバークラフトから救出されようと船内に入ろうとすると「バン！」黒煙を上げて爆発した。島から双眼鏡を見てリモートで爆発させている。途中迄、泳いでいた全裸のナース達は浜辺を目指して島に泳ぎだした。上陸した一人が銃を持った外人に抱きつく。乳首に取り付けた芯管が作動して外人もろとも爆発する。「正吉！駄目だわ。裏のクルーザーで逃げましょう。私が先導するわ」「死ぬとわかった人間は恨みを晴らすよなぁ。あー！タックン、抱きしめられた」卓也は浜辺でマフィアと裸の女達の闘いを映像に撮るために木陰に隠れていたが、見つかり女達二人に抱かれ爆発した。「花も鉄ちゃん、卓也も呆気ないな！」ユックリとマリアの後を通り別荘の裏口に廻った。「マリア！お前は許さない」女達二人がマリアを抱きつくように木陰から出てくる。「ガン！ガン！」手に握られた銃で女達は額を撃ち抜かれ倒れた。

浜辺ではある程度、マフィア達は駆逐されていた。ナース達も数人は怪我をしているが助かっている。ひざまずく女達に黒いクナイが飛んだが群青が叩き落とした。投げたのはミラ。ミラと群青。ミヤと紅が対峙している。医師でもある白は女達の治療をしている。別荘からサリが歩いて来る。正吉とマリアを逃せば任務は完了だ。自分達まで無事に逃げれるとは思っていない。サリに雷と鎌鼬が対峙

する。上からの命令は殺すなだった。サリは手刀で雷を標的に襲って来た。鎌鼬は遠距離攻撃を得意としている。「コーッ」雷が大きな息をしてタックルのように腰を屈めた。すかさず、サリは手を肩に延ばす。しかし、肩には当たらず弾き返される。雷の術の静電気を身体に纏い、防護する技にサリは弾かれた所を鎌鼬の真空の刃が両肩から下を切断した。倒れた所に雷が近づき口に詰め物をして自害を防いだ。ミラと群青が対立している。ミラの特異体質は身体がゴムのように刀を通さない。ミラの後ろの木が揺れると蔦がミラを目掛けて飛んでゆき絡みつく。幾ら身体が柔らかくても幾重にも絡んだ蔦は取れない。絡みつく蔦は猿轡のように口も塞ぐ。地面に横たわった時に木陰からの深緑が出てきた。ミヤと紅も拮抗していた。ミヤは刀で切れない皮膚をしている。紅が幾ら刀を振り下ろしても切れない。群青がミヤにコップ一杯分の水をかける。水は滴らずにミヤの鼻の穴、口に入っていく。群青の技は水を粘着質に変えたりする技。ミヤは陸上で溺れた。慌ててクルーザーに走るマリアと正吉の前に般若面のくノ一が現れた。薙刀を持ち待ち構えている。正吉が銃口を向けて撃とうとした時に薙刀の先が銃を持った正吉の手首に飛んでいき切断した。薙刀の刃先は鎖に繋がれ飛んだり出来るようになっている。「正吉さん！私の後に早く！」マリアが正吉を逃がそうとする。正吉は切られた切り口を押さえながら道を戻る。マリアがクナイを般若面に投げるとクナイが別れ顔の前で二本に別れた。「キン！」金属音を上げて一本は弾き飛ばしたが、一本は般若面を掠った。長い黒髪が垂れて涼し気な目元が見えた。黒姫は百地小百合だった。マリアは幼さの残る小百合の顔を見て、逃げれると確信したが小百合が掌をマリアに向けた途端に身体が動かなくなった。黒姫、小百合の技は瞬間催眠。ユックリとマリアに近づき目元を掌で隠すとそのまま眠りに落ちた。

ホバークラフトにマリア、正吉達を乗せ、別荘を探索すると桃の遺品や拷問動画が出てきた。「会長！このままD施設に敵の捕虜、マリア、正吉と桃の惨殺に係わった者を連れていき処刑します。」白

と本部の会話が聞こえたらしく「法治国家の特殊部隊なんだろう！お前ら！弁護士を呼んで裁判しろよ！」「訴えるぞ！」正吉が騒ぎ立てる。黒姫が近づき正吉の眼を隠すとストンと気絶した。ホバークラフトに正吉やマリア達を乗せた船は他のナースの生き残りを乗せた船とは違う方向に別れて走り去った。一時間後、黒い巡視船らしきものが島に近づきハッチから水陸両用車が出て来て島に上陸した。メキシコマフィア、殺されたナース達を水陸両用車に積み、バラバラの遺体は砂浜に埋めて別荘を爆破し、島から離れた。

組織壊滅　正吉の夢が散る

最終章　　マリア達の処刑

ミヤとミラは対面にM字に脚を広げられて女性器を剥き出しで拘束椅子に座らされている。お互いに双子だが相手の性器をマジマジと見た事は無い。羞恥心等は感じた事は無かったが、お互い初めて羞恥心を持って相手の性器を見ずに瞼を閉じようとしているが瞼にはテープが貼られ目が閉まらない。頭は固定され相手の性器を見るしかない。白衣を着た白とテーブルの上に丸い透明なケースが付いた台を助手が持って来た。猿轡を外された。自害しようとしたが歯が抜かれている。テーブルの中には黒い小さな虫が蠢いている。「スグに殺せ！お前ら警察だろ！」二人ともに口汚く白を罵る。「一気に殺したいが上の命令でなるべく苦しむ方法でとの事でね。それと貴方達って切れにくいしね。だから…」蠢いている虫の中にハツカネズミを投げ入れた。ジタバタもがいたネズミが１０分で骨だけになった。「軍隊アリってわかるわよね？ソレを少し凶暴化して食欲旺盛に改良したの」楽しそうに笑いながら白は話す。「これをね…もう、わかるわよね。」尿道カテーテルを持ってミヤに向かう。手慣れた手付きでミヤの肉のビラを人差し指と中指で広げ尿道口に差し込む。「イッ！」眉間に皺を寄せて嫌がる。よく見ると幼い。陰毛も産毛が少し伸びた程度しか生えていない。自分達よりも年下の娘を殺めるのは任務でもいい気はしない。少し太目のパイプも幼いピンクの亀裂に入れる。「アァイタッ」余り、経験は無いであろう膣から血が体液と共に出てくる。本当は絶命する迄、見届けなくては行けないが部下に任せて白は部屋を出た。白の部下が装置のボタンを押すとカテーテル内を真っ直ぐに黒い筋になってアリが登って行く。同じように塊に成りながら膣を目掛けてアリが登っていき尿

道口に数匹が入った途端にミヤとミラの叫びが部屋に木霊した。３０分後に白は部屋を訪れた。ミヤ、ミラの双子の腹部は血だらけに成り尻の穴からアリがこぼれ落ちていた。二人とも血の涙を流して絶命していた。テーブルの上に有るケースには蟻は一匹もいない。二人の身体に入っているのだろう。顔の浅黒さから東南アジアで誘拐か売られ組織に入ったのだろう。二人の処刑はカメラで一部始終が取られている。白は骨だけになる迄、カメラを回すように指示をして部屋から出た。部屋から出た白の顔が険しくなった。一番、残酷にムラサキ、桃達を惨殺したマリアとサリの処刑が残っている。

「紅！コイツはどうする？」「桃を焼いてくれたんだから同じ目にあわさないとね。」「じゃあ炎を扱う貴方に任すわ」「わかったわ。一番、苦しめて焼いて上げるわ」天井にある滑車に紐を通し輪をサリの首に掛けて滑車を回す。首が締められているがサリは死ぬ気で爪先立ちをせずに踵を床に着けている。「いるのよね。スグに楽になりたい奴って！コッチにするわ」滑車から紐を外し天井から床まで二本の棒が通っている真ん中にサリを立たせる。脚を開いた状態に床に固定し棒状の物を股間に立たせ先をサリの紫に縁取られた肉ビラに差し込んで行く。「貴方、結構遊んでるわね」笑いながら股間を揉みしだきながら濡れてきた割れ目に棒を差し込む。紅を睨んで喘ぎ声も上げない。二本の棒の肩から首に掛けて木の固定具で固定をする。肩で木の板を担いだ形にすると「トン」二本の棒の上部から輪になったオモリが落ちて来る。「一つ１キロだから１０分に両肩に１キロずつ落ちて行くわ。何キロまで耐えれるかしら？あ！コレもしないと」ピアノ線を柱のフックに掛けてピアノ線の先の釣り針を両乳首とクリトリスに引っ掛けた。「頑張ってね！電熱線に電流を流すからね。」スイッチを押しカメラを回し始めて部下に監視させて部屋から出て行った。一時間も持たないわねと思いながらマリアと正吉の処刑所に歩いて行った。処刑所には白、紅、群青、艶華がいた。「この男の処刑はこれしか思いつかないわ」処刑所は建物の屋上に有った。正吉は裸にされペニスははち切れんびかりに

怒張して板に固定されている。そのペニスに何本もの光の筋が走り光の集結した所から煙を上げている。「やっぱり、桃と同じ思いをさせないとね」アリサは振り子時計の振り子部分にマングリ返しの型に尻を上に向けて固定されている。「この時計はね、2時間で振り子が下に降りきる仕掛けだから。じっくりと木製のノコギリを味わってね。」「カメラの撮影は貴方達に任すわ。」部下達に伝え白は処刑所を後にした。「私達はあの女の絶叫を聞いたら降りるわ。」艶華、紅、群青は振り子に伸びる階段を上がって行った。30分後にマリアの股間ギリギリに振り子に付いているノコギリの刃が陰毛をかすめる。後、2、3振りで刃が柔らかな肉ビラを引っ掛ける。「ウグッ！」薄ピンクのビラから赤い血が飛ぶ。「グッ！」下の正吉から呻き声が上がる。振り子に連動して正吉の尻に突き刺している円錐状の槍が段々と上に上がる。

「ガカッ！」少しずつマリアの股間をノコギリの刃が強く擦って行く。木製のノコギリなので切ると言うより削いで行く感じでマリアの股間を削いでいく。股間の割れ目が尻側と臍側に伸びていく。正吉のペニスは部分、部分が炭化してギリギリ、ペニスの型をしているが腹からは槍が飛び出し虚ろな開いた目が開いていた。マリアの股間は臍まで切れた辺りでユックリと止まった。サリは両肩に40キロ迄、オモリを耐えていたが膝を落とした瞬間、棒の中の熱した火箸が棒を溶かしそのまま、子宮を突き破り臍から外に出て、膝を付いたサリの胸を突き刺していた。

処刑動画は敵対組織に送るのが昔からの慣わしが百地には有った。東南アジア組織の長は孫を殺されるさまを震えながら見ていた。

組織壊滅　正吉の夢が散る（後書き）

拙い文章を読んで頂きありがとうございます。又、構想を考えて文章にしますので宜しくお願いします。

この作品の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
https://novel18.syosetu.com/n1485gq/

無邪気な悪魔と忍者の末裔

2025年10月7日12時36分発行